

8-4 動物・植物・生態系

8-4-1 動物

工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に伴う車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）及び鉄道施設（トンネル、変電施設、保守基地）の存在により、対象事業実施区域及びその周囲で、重要な種及び注目すべき生息地への影響のおそれがあることから、環境影響評価を行った。

なお、東海丘陵の小湿地群は、春日井市東北部の丘陵地の内、東海丘陵要素植物群の生育する水域・湿地周辺とした。

(1) 調査

1) 調査すべき項目

ア. 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、魚類、底生動物（淡水産貝類含む）、真正クモ類、陸産貝類の状況

調査項目は、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、魚類、底生動物、真正クモ類、陸産貝類の状況とした。

イ. 重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況

調査項目は、重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況とした。

また、東海丘陵の小湿地群においては、「湿地・湿原生態系保全の考え方～適切な保全活動の推進を目指して～」(平成19年3月、愛知県)に挙げられている種及び専門家の助言により選定した湿地性の種を対象とした。

ウ. 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況

調査項目は、注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況とした。

2) 調査の基本的な手法

ア. 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、魚類、底生動物（淡水産貝類含む）、真正クモ類、陸産貝類の状況

文献調査により、地域に生息する動物関連の文献資料を収集し、整理した。なお、必要に応じて専門家ヒアリングを行った。

現地調査の方法を表 8-4-1-1 に示す。

表 8-4-1-1(1) 動物の調査方法

| 調査項目 | | 調査方法 | |
|---------|-----------|---|--|
| 哺乳類 | 任意確認、夜間撮影 | 調査地域内を任意に踏査し、哺乳類の生息の根拠となる足跡、糞、食痕、掘り返し跡等のフィールドサイン（生息痕）の確認から、調査地域に生息する種の把握を行った。また、自動撮影装置を併用して、けもの道等の哺乳類の移動経路の把握に努めた。 | |
| | トラップ法 | 【ネズミ類】 調査地域内に見られる樹林、草地等の様々な環境に地点を設定し、トラップを設置した。トラップにはシャーマントラップ及び墜落かんを使用した。シャーマントラップの餌はピーナッツ、ソーセージ、サツマイモ等を用いた。シャーマントラップの設置数は30個/1地点、墜落かんの設置数は2~3個/1地点とし、2晩設置した。7地点に設置した。 | |
| | | 【カワネズミ】 調査地域内に位置する河川にトラップを設置した。トラップにはカゴワナを使用し、餌は魚類を用いた。カゴワナの設置数は5箇所/1地点とし、2晩設置した。2地点に設置した。 | |
| | | 【モグラ類】 モグラ塚等が見られる地点にモールトラップを設置した。モールトラップの設置数は10個/1地点とし、2晩設置した。3地点に設置した。 | |
| | | 【コウモリ類】 調査地域内におけるコウモリ類の通過経路と判断される場所において、ハーブトラップを用いて捕獲調査を実施した。ハーブトラップの設置数は1箇所/1地点とした。3地点に設置した。 | |
| 鳥類 | 一般鳥類 | 任意確認 | 調査地域内を任意に踏査し、出現した鳥類の種名を記録した。重要な種が確認された場合は、確認位置、個体数、行動等を記録した。また、フクロウ類等の夜行性鳥類の生息確認を目的とした夜間調査も実施した。 |
| | | ラインセンサス法 | 調査地域内に設定した調査ルート上を、時速2kmで歩きながら一定範囲内（草地は片側50m、林内は片側25m程度）に出現する鳥類の種名及び個体数を記録した。調査にあたっては、8~10倍程度の双眼鏡を用いるとともに、姿や鳴き声により鳥類の確認を行った。調査時間帯は鳥類の活動が活発となる早朝に設定し、ルート数は3ルートとした。 |
| | | ポイントセンサス法 | 観察地点を定め、双眼鏡や望遠鏡を用いて30分程度の観察を行い、姿や鳴き声により確認される鳥類の種名及び個体数を記録した。3地点に設置した。 |
| | 希少猛禽類 | 定点観察法 | 猛禽類の営巣が考えられる地域について繁殖地特定のための行動の確認を目的として、設定した定点において簡易無線機による情報交換を行いながら、8~10倍程度の双眼鏡及び20~60倍程度の望遠鏡を用いて、飛翔行動等を確認した。 |
| | | 営巣地調査 | 古巣及び営巣木の確認を目的として、生息の可能性が高い林内を歩き、樹林の状況、巣がかかけられている営巣木の状況（樹種、樹高、胸高直径、営巣位置等）、巣の形状（直径、厚さ）、周辺の地形や植生等を記録した。 |
| 爬虫類・両生類 | 任意確認 | 調査地域内を任意に踏査し、目視観察及び捕獲、鳴き声等により確認された両生類・爬虫類の種名や個体数、確認位置等を記録した。なお、昼間は目視により個体を確認し、夜間はカエル類の鳴き声等を確認した。 | |
| 昆虫類 | 任意採集 | 調査地域内を任意に踏査し、目視観察及び鳴き声等で確認された昆虫類の種名を記録した。また、目視観察で種名の確認が困難な場合は、捕虫網等を用いて採集した。なお、捕虫網を振り回し昆虫類を採集するスウィーピング法、樹木の枝や葉等を叩き、付着している昆虫類を採集するビーティング法も併用した。また、現地での種の識別が困難なものは、標本として持ち帰り、同定を行った。 | |
| | ライトトラップ法 | 夜間に光に誘引されるコウチュウ類、ガ類等の確認を目的として、調査地域内に見られる代表的な環境において、ボックス法によるライトトラップを7地点で実施した。 | |
| | ベイトトラップ法 | 主に地表徘徊性のコウチュウ類、アリ類等の確認を目的として、調査地域内に見られる樹林、草地等の様々な環境に地点を設定し、トラップを設置した。トラップは、誘因餌を入れたプラスチックコップを20個/1地点で地中に埋設し、1晩設置した後、回収した。9地点で実施した。 | |

表 8-4-1-1(2) 動物の調査方法

| 調査項目 | 調査方法 | |
|-------------------|--------|---|
| 魚類 | 任意採集 | 調査地域内に設定した調査地点・範囲（河川）において、各種漁具（投網、タモ網、サデ網、定置網）を用いて任意に魚類を採取し、種名、個体数、確認環境等を記録した。また、潜水による目視観察も行った。なお、現地での種の識別が困難なものは、採取した魚類をホルマリン等で固定して標本として持ち帰り、同定を行った。 |
| 底生動物 (淡水産貝類含む) | 任意採集 | 調査地域内に設定した調査地点・範囲（河川）において、タモ網等を用いて任意に底生動物の採集を行った。採集した底生動物はホルマリンで固定して標本として持ち帰り、同定を行った。 |
| | コドラート法 | 調査地域内に設定した4点において、コドラート付サーバーネット（25cm×25cm）を用いて、一定面積内に生息する底生動物の採集を行った。採集は1地点あたり同様の環境で3回実施した。採集した底生動物はホルマリンで固定して、標本として持ち帰り、同定を行った。 |
| 真正クモ類 | 任意採集 | 調査地域内を任意に踏査し、目視観察等で確認されたクモ類の種名を記録した。また、目視観察で種名の確認が困難な場合は、捕虫網等を用いて採取した。さらに、現地での種の識別が困難なものは、標本として持ち帰り、同定を行った。 |
| 陸産貝類 | 任意採集 | 調査地域内を任意に踏査し、熊手やライト等を用いて、目視観察及び捕獲により確認された陸産貝類の種名や個体数、確認位置等を記録した。また、微小な陸産貝類を対象に、リター層ごと採取して持ち帰り、同定を行った。 |

イ. 重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況

生息が確認された種の内、表 8-4-1-2 に示す基準に該当するものを重要な種として選定した。

なお、重要な種の選定にあたっては、必要に応じて専門家の助言を受け、選定した。

表 8-4-1-2 重要な種及び注目すべき生息地の選定基準

| 番号 | 文献及び法令名 | 区分 |
|----|---|---|
| ① | 文化財保護法（昭和 25 年、法律第 214 号） | 特天：特別天然記念物 天：天然記念物 |
| ② | 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年、法律第 75 号） | 国内：国内希少野生動植物種 国際：国際希少野生動植物種 |
| ③ | 自然環境保全法（昭和 47 年、法律第 85 号） | ○：指定の地域 |
| ④ | 特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（昭和 55 年） | ○：指定湿地 |
| ⑤ | 世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（平成 4 年） | ○：自然遺産の登録基準に該当するもの |
| ⑥ | 愛知県文化財保護条例（昭和 30 年、愛知県） 春日井市文化財保護条例（昭和 57 年、春日井市） 名古屋市長官公署文化財保護条例（昭和 47 年、名古屋市長官公署） | 県天：県指定天然記念物 市天：市指定天然記念物 |
| ⑦ | 自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例（昭和 48 年、愛知県条例第 3 号） 自然環境の保全を推進する条例（平成 24 年、春日井市） | 指定：指定希少野生動植物 |
| ⑧ | 環境省第 4 次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類・昆虫類、陸産貝類・淡水産貝類、甲殻類等（平成 24 年、環境省） | EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類 |
| | 環境省第 4 次レッドリスト 汽水・淡水魚類（平成 25 年、環境省） | NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 |
| ⑨ | レッドデータブックあいち 2009（平成 21 年、愛知県） | EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：地域個体群 |
| ⑩ | レッドデータブックなごや 2004（平成 16 年、名古屋市長官公署） レッドデータブックなごや 2010-2004 年版補遺-（平成 22 年、名古屋市長官公署） | EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 I A 類 EN：絶滅危惧 I B 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：地域個体群 |
| ⑪ | 日本の地形レッドデータブック第 1 集（平成 12 年、小泉武栄・青木賢人） | ○：動物や植物の生息地としての重要な地形 |
| | 日本の地形レッドデータブック第 2 集（平成 14 年、小泉武栄・青木賢人） | |
| ⑫ | 湿地・湿原生態系保全の考え方～適切な保全活動の推進を目指して～（平成 19 年 3 月、愛知県） | ○：選定種 |
| ⑬ | 専門家の助言により選定した種 | ○：選定種 |

ウ. 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息の状況及び生息環境の状況

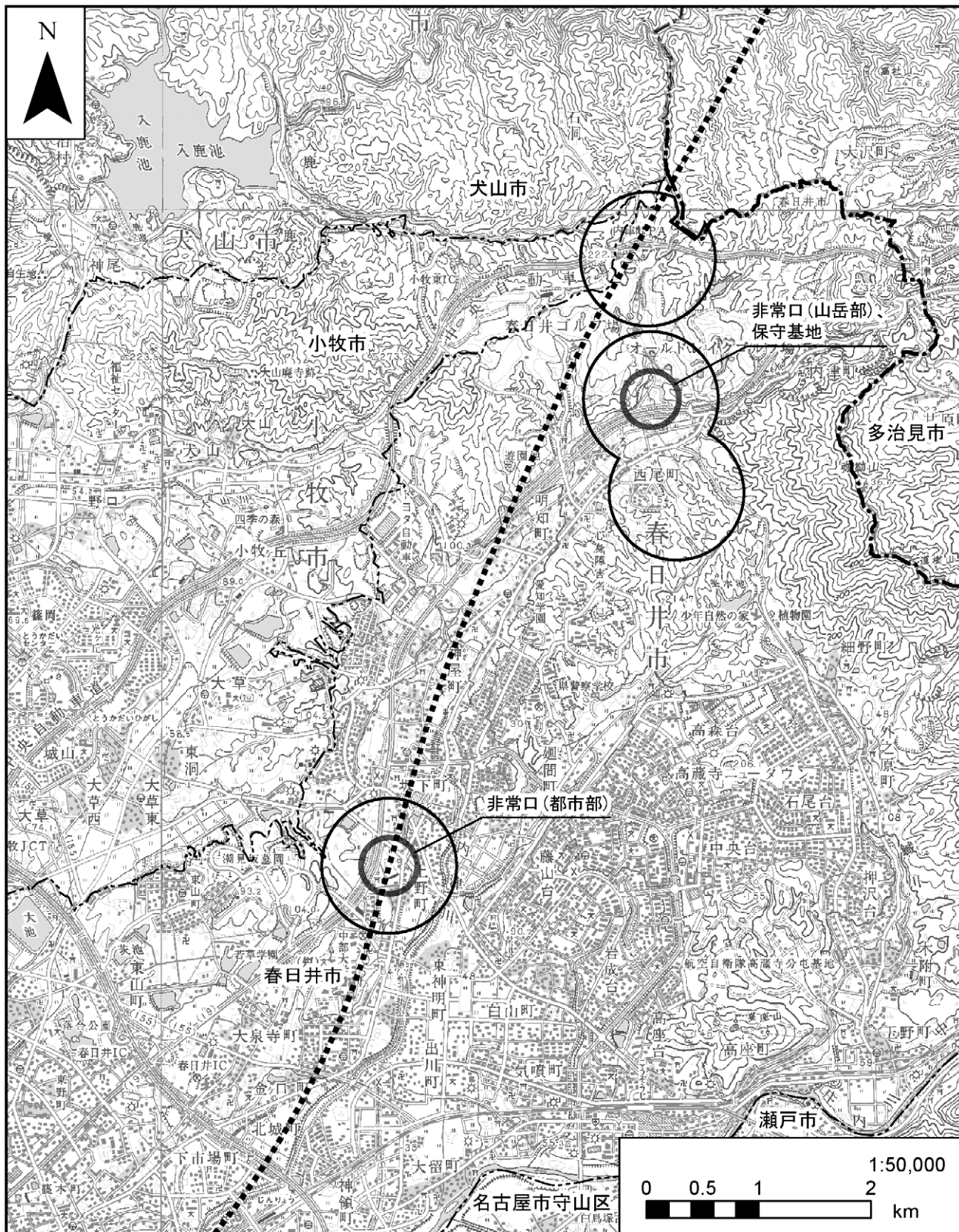
文献調査により、注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である動物の種の生息及び生息環境の状況に関し、表 8-4-1-2 に示す基準に該当するものを調査した。

3) 調査地域

対象事業実施区域及びその周囲の内、都市トンネル、山岳トンネル、非常口(都市部、山岳部)、変電施設、保守基地を対象に工事の実施又は鉄道施設(都市トンネル、山岳トンネル、非常口(都市部、山岳部)、変電施設、保守基地)の存在に係る動物への影響が生じるおそれがあると認められる地域とした。

4) 調査地点

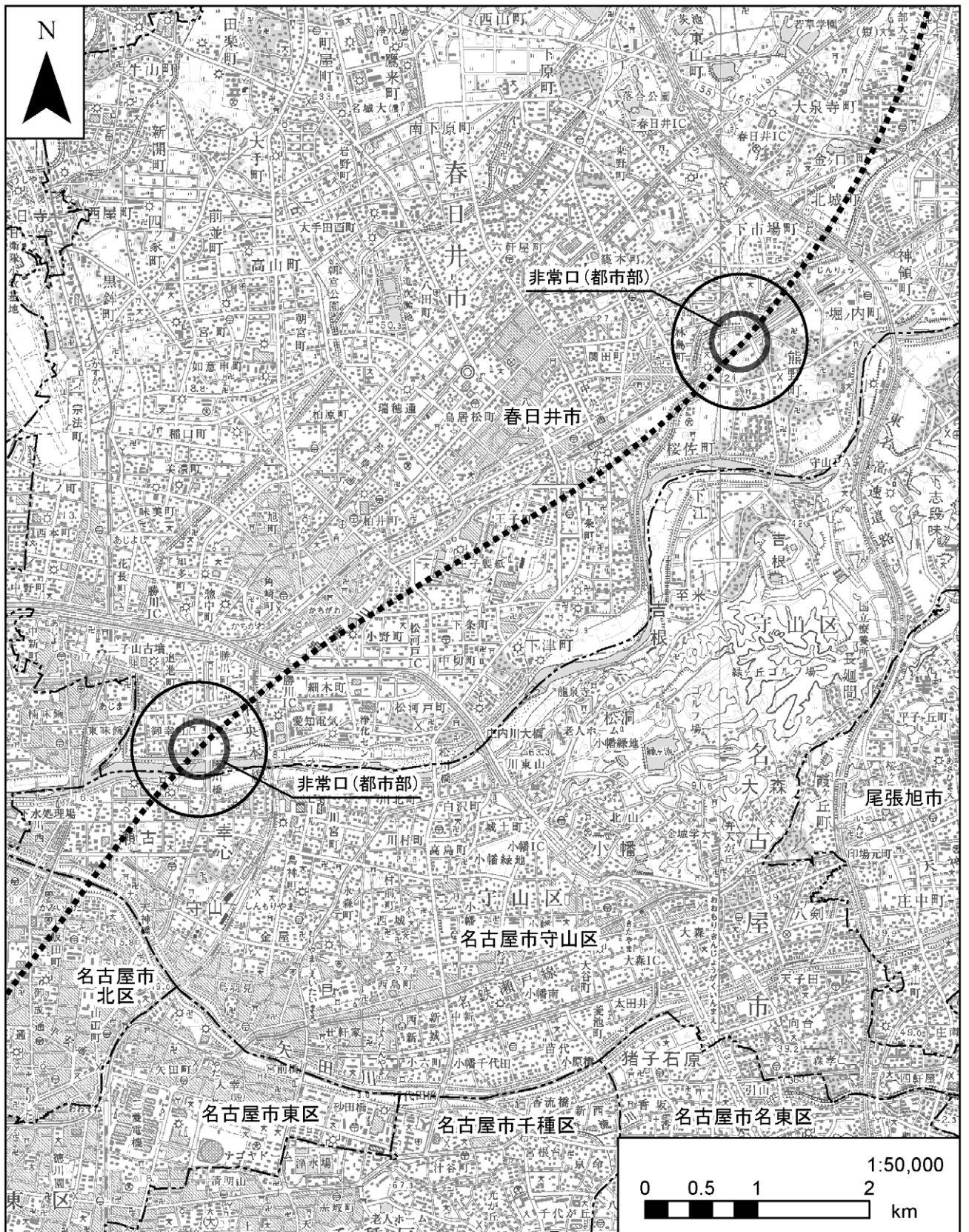
調査地域の内、自然環境の状況及び利用状況等を考慮し、動物相の現状を適切に把握することができる範囲とした。調査範囲は、土地改変区域から概ね 600m の範囲とした。猛禽類は「猛禽類保護の進め方(環境庁)」に基づき設定した。なお、設定にあたっては専門家から意見を聴取した。また、東海丘陵の小湿地群は、周辺の地形等の条件や専門家からの助言を勘案して、その地域を代表する動物の生息環境を網羅できる範囲として、西尾地区の南北に設定した。調査範囲は、図 8-4-1-1 に示すとおりである。



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 県境
- 市区町村界
- 調査範囲

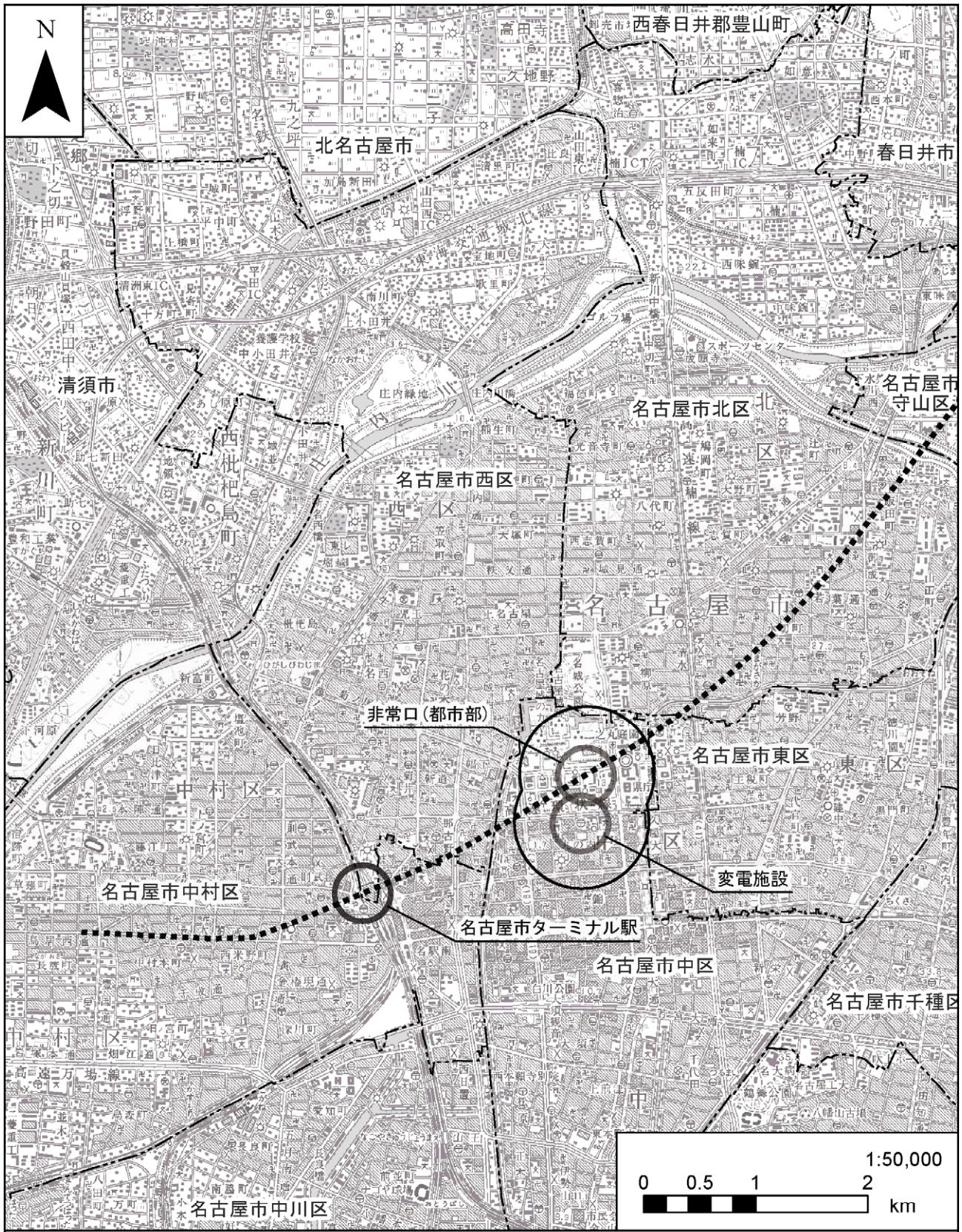
図 8-4-1-1(1) 調査範囲



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 県境
- 市区町村界
- 調査範囲

図 8-4-1-1(2) 調査範囲



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 県境
- - - 市区町村界
- 調査範囲

図 8-4-1-1(3) 調査範囲

5) 調査期間

動物の現地調査を表 8-4-1-3 に示す時期に実施した。

表 8-4-1-3(1) 調査期間

| 調査項目 | | 調査手法 | 調査実施日 | | |
|------|----------------------------------|--|---|---|-----------------------|
| 哺乳類 | 任意確認、夜間撮影 (1 晩設置) | 春季 | 平成 24 年 5 月 14 日～18 日、21 日～23 日、 平成 25 年 5 月 13 日～16 日 | | |
| | | 夏季 | 平成 24 年 7 月 24 日～26 日、7 月 30 日～8 月 2 日 | | |
| | | 秋季 | 平成 24 年 10 月 22 日～26 日 | | |
| | | 冬季 | 平成 25 年 1 月 22 日～24 日、1 月 28 日～2 月 1 日 | | |
| | トラップ法 (ネズミ類) (2 晩設置) | 夏季 | 平成 24 年 6 月 25 日～27 日、平成 25 年 6 月 10 日～12 日 | | |
| | | 秋季 | 平成 24 年 10 月 15 日～17 日 | | |
| | トラップ法 (カワネズミ) (2 晩設置) | 夏季 | 平成 24 年 6 月 25 日～27 日 | | |
| | | 秋季 | 平成 24 年 10 月 15 日～17 日 | | |
| | トラップ法 (モグラ類) (2 晩設置) | 夏季 | 平成 24 年 6 月 25 日～27 日、平成 25 年 6 月 10 日～12 日 | | |
| | | 秋季 | 平成 24 年 10 月 15 日～17 日 | | |
| | トラップ法 (コウモリ類) (日没前後から 3～4 時間) | 夏季 | 平成 24 年 7 月 30 日～8 月 1 日 | | |
| | | 秋季 | 平成 24 年 10 月 23 日～27 日 | | |
| 鳥類 | 一般鳥類 | 任意確認 (春季、繁殖期、冬季は日没 後 1～2 時間の夜間調査も実 施) | 春季 | 平成 24 年 5 月 14 日～17 日、平成 25 年 5 月 13 日～15 日 | |
| | | | 繁殖期 | 平成 24 年 6 月 25 日～29 日 | |
| | | | 夏季 | 平成 24 年 7 月 24 日～27 日 | |
| | | | 秋季 | 平成 24 年 10 月 9 日～12 日 | |
| | | 冬季 | 平成 25 年 1 月 22 日～24 日 | | |
| | | ラインセンサス法 ポイントセンサス法 (早朝に実施) | 春季 | 平成 24 年 5 月 14 日～17 日 | |
| | 繁殖期 | | 平成 24 年 6 月 26 日 | | |
| | 夏季 | | 平成 24 年 7 月 25 日 | | |
| | 秋季 | | 平成 24 年 10 月 10 日～11 日 | | |
| | 希少猛禽類 | 定点観察法 | 第 1 営巣期 | 繁殖期 | 平成 24 年 1 月 26 日～31 日 |
| | | | | | 平成 24 年 2 月 20 日～23 日 |
| | | | | | 平成 24 年 3 月 13 日～16 日 |
| | | | | 平成 24 年 4 月 17 日～19 日 | |
| | | | | 平成 24 年 5 月 18 日～20 日 | |
| | | | | 平成 24 年 6 月 16 日～19 日 | |
| | | | | 平成 24 年 7 月 10 日～14 日 | |
| | | | | 平成 24 年 8 月 4 日～7 日 | |
| | | 平成 24 年 11 月 5 日～8 日 | | | |
| 非営巣期 | | 第 2 営巣期 | 繁殖期 | 平成 25 年 1 月 16 日～18 日 | |
| | | | | 平成 25 年 2 月 19 日～21 日 | |
| | | | | 平成 25 年 3 月 12 日～14 日 | |
| | | | | 平成 25 年 4 月 10 日～12 日 | |
| | | | | 平成 25 年 5 月 15 日～17 日 | |
| | | | 平成 25 年 6 月 5 日～7 日 | | |
| | 平成 25 年 7 月 3 日～5 日 | | | | |
| | 平成 25 年 8 月 1 日～3 日 | | | | |

注 1. 哺乳類、鳥類の任意確認調査、猛禽類の定点観察法は日中に行った。

表 8-4-1-3(2) 調査期間

| 調査項目 | 調査手法 | 調査実施日 | |
|-------------------|---|-----------------------|--|
| | | | |
| 爬虫類 | 任意確認 | 春季 | 平成 24 年 5 月 14 日～17 日、平成 25 年 5 月 13 日～15 日 |
| | | 夏季 | 平成 24 年 7 月 30 日～8 月 2 日 |
| | | 秋季 | 平成 24 年 10 月 22 日～26 日 |
| | 任意確認 (日没後 1～2 時間の夜間調査) | 春季 | 平成 24 年 5 月 14 日、16 日～17 日 |
| 夏季 | | 平成 24 年 7 月 30 日～31 日 | |
| 両生類 | 任意確認 | 早春季 | 平成 24 年 3 月 27 日～29 日、平成 25 年 3 月 19 日 |
| | | 春季 | 平成 24 年 5 月 14 日～17 日、平成 25 年 5 月 13 日～15 日 |
| | | 夏季 | 平成 24 年 7 月 30 日～8 月 2 日 |
| | | 秋季 | 平成 24 年 10 月 22 日～26 日 |
| | 任意確認 (日没後 1～2 時間の夜間調査) | 早春季 | 平成 24 年 3 月 27 日～28 日 |
| | | 春季 | 平成 24 年 5 月 14 日、16 日～17 日 |
| 夏季 | | 平成 24 年 7 月 30 日～31 日 | |
| 昆虫類 | 任意採集 ライトトラップ法 ベイトトラップ法 (1 晩設置) | 早春季 | 平成 24 年 4 月 16 日 |
| | | 春季 | 平成 24 年 5 月 1 日～2 日、5 月 14 日～17 日、21 日～22 日、 平成 25 年 5 月 14 日～16 日、5 月 28 日～6 月 1 日、 6 月 10 日～13 日 |
| | | 夏季 | 平成 24 年 7 月 24 日～26 日、30 日～8 月 2 日 |
| | | 秋季 | 平成 24 年 10 月 22 日～26 日 |
| 魚類 | 任意採集 | 春季 | 平成 24 年 5 月 21 日～24 日、平成 25 年 4 月 16 日～17 日 |
| | | 夏季 | 平成 24 年 8 月 6 日～8 日、22 日～24 日 |
| | | 秋季 | 平成 24 年 10 月 1 日～5 日 |
| | | 冬季 | 平成 25 年 1 月 22 日～25 日 |
| 底生動物 (淡水産貝類含む) | 任意採集 コドラート法 | 春季 | 平成 24 年 5 月 21 日～24 日、平成 25 年 4 月 16 日～17 日 |
| | | 夏季 | 平成 24 年 8 月 6 日～8 日、22 日～24 日 |
| | | 秋季 | 平成 24 年 10 月 1 日～5 日 |
| | | 冬季 | 平成 25 年 1 月 22 日～25 日 |
| 真正クモ類 | 任意採集 | 春季 | 平成 24 年 5 月 14 日～17 日、平成 25 年 5 月 13 日～15 日 |
| | | 夏季 | 平成 24 年 7 月 30 日～8 月 2 日 |
| | | 秋季 | 平成 24 年 10 月 22 日～26 日 |
| 陸産貝類 | 任意採集 | 春季 | 平成 25 年 4 月 23 日～24 日、平成 25 年 5 月 13 日～15 日 |
| | | 夏季 | 平成 24 年 7 月 30 日～8 月 2 日、平成 25 年 6 月 25 日、27 日～28 日 |
| | | 秋季 | 平成 24 年 10 月 22 日～26 日 |

注 1. 爬虫類、両生類、昆虫類、魚類、底生動物、真正クモ類、陸産貝類の任意調査は日中に行った。

6) 調査結果

哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、魚類、底生動物、真正クモ類及び陸産貝類について現地調査の結果を以下に示す。なお、確認地点における改変の可能性がある範囲からの位置関係は、表 8-4-1-4 に基づいて整理した。

表 8-4-1-4 改変区域と確認位置の距離に関する定義

| 用語 | | 定義 |
|-----|----------------|--------------------------------------|
| 範囲内 | 改変の可能性がある範囲 | 計画施設及び工事施工ヤードが設置され、改変される可能性がある範囲 |
| 範囲外 | 改変の可能性がある範囲の近傍 | 改変の可能性がある範囲外でかつ、改変の可能性がある範囲の周辺250m未満 |
| | 相当離れた地域 | 改変の可能性がある範囲外でかつ、改変の可能性がある範囲の周辺250m以上 |

ア. 哺乳類

7) 哺乳類の状況

現地調査において6目11科16種の哺乳類が確認された（「資料編 13-1-1 哺乳類」参照）。現地調査結果の概要を表 8-4-1-5 に示す。

表 8-4-1-5 哺乳類現地調査結果の概要

| 調査時期 | 確認種数 | 主な確認種 |
|------|----------|--|
| 春季 | 3目4科7種 | ヒミズ、コウベモグラ、モグラ属、コウモリ目、ホンドタヌキ、ホンドキツネ、イタチ属 |
| 夏季 | 5目7科13種 | コウベモグラ、アブラコウモリ、ホンドタヌキ、ホンドキツネ、イタチ属、アライグマ、ハクビシン、ホンシュウカヤネズミ、ホンドアカネズミ等 |
| 秋季 | 6目9科11種 | モグラ属、コウモリ目、ホンドキツネ、イタチ属、ホンシュウカヤネズミ、ホンドアカネズミ、ハツカネズミ、ノウサギ等 |
| 冬季 | 5目7科9種 | コウベモグラ、モグラ属、ホンドタヌキ、イタチ属、ニホンイノシシ、ムササビ、ホンシュウカヤネズミ、ホンドアカネズミ、ヌートリア |
| 計 | 6目11科16種 | |

4) 重要な哺乳類の分布、生息状況及び生息環境の状況

文献調査及び現地調査により確認された重要な哺乳類は6目11科18種であった。文献及び現地で確認された重要な哺乳類とその選定基準を表8-4-1-6に示す。

表 8-4-1-6 重要な哺乳類確認種一覧

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 確認状況 | | 選定基準 | | | | | | | | | |
|-----|--------|-----------|--------------|------|--------|------|----|----|------|----|-----|----|----|----|--|
| | | | | 文献 | 現地 | ① | ② | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑫ | ⑬ | | |
| 1 | モグラ | トガリネズミ | ホンシュウジネズミ | ○ | | | | | | | LP | EN | | | |
| 2 | | | ホンシュウヒミズ | ○ | | | | | | | | EN | | | |
| 3 | | | コウベモグラ | ○ | ○ | | | | | | | LP | VU | | |
| 4 | コウモリ | キクガシラコウモリ | ニホンキクガシラコウモリ | ○ | | | | | | | NT | CR | | | |
| 5 | | | ネコ | イヌ | ホンダタヌキ | ○ | ○ | | | | | | | NT | |
| 6 | ホンダキツネ | ○ | | | | | | | | | | | CR | | |
| 7 | イタチ | ホンダテン | | | ○ | | | | | | | NT | CR | | |
| 8 | | ホンダイタチ | | | ○ | | | | | | | | VU | | |
| 9 | | ニホンアナグマ | | | ○ | | | | | | | | DD | CR | |
| 10 | | ウシ | イノシシ | ○ | | | | | | | | | EX | | |
| 11 | シカ | | ○ | | | | | | | | | EX | | | |
| 12 | ウシ | | ニホンカモシカ | ○ | | | 特天 | | | | | NT | | | |
| 13 | ネズミ | リス | ニホンリス | ○ | | | | | | | | | CR | | |
| 14 | | | ムササビ | ○ | | | | | | | | NT | CR | | |
| 15 | | ネズミ | ハタネズミ | ○ | | | | | | | | NT | EN | | |
| 16 | | | ホンシュウカヤネズミ | ○ | ○ | | | | 春日井市 | | | VU | EN | | |
| 17 | | | ホンダアカネズミ | ○ | | | | | | | | | VU | | |
| 18 | ウサギ | ウサギ | ホンシュウノウサギ | ○ | | | | | | | | CR | | | |
| 計 | 6目 | 11科 | 18種 | 18種 | 3種 | 1種 | 0種 | 1種 | 0種 | 8種 | 18種 | 0種 | 0種 | | |

注1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。
 注2. 分類、配列等は、原則として「種の多様性調査（動物分布調査）対象種一覧」（平成10年、環境庁）に準拠した。

注3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」（昭和25年、法律第214号）
 特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成4年、法律第75号）
 国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
- ⑦ 「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」（昭和48年、愛知県条例第3号）
 「自然環境の保全を推進する条例」（平成24年、春日井市）
 愛知県：愛知県指定希少野生動植物、春日井市：春日井市指定希少野生動植物
- ⑧ 「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類・昆虫類、陸産貝類・淡水産貝類、甲殻類等」（平成24年、環境省）
 「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」（平成25年、環境省）
 EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類
 VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑨ 「レッドデータブックあいち2009」（平成21年、愛知県）
 EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧
 DD：情報不足、LP：地域個体群
- ⑩ 「レッドデータブックなごや2010-2004年版補遺」（平成22年、名古屋市）
 EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧
 DD：情報不足、LP：地域個体群
- ⑫ 「湿地・湿原生態系保全の考え方～適切な保全活動の推進を目指して～」(平成19年3月、愛知県)
 ○：湿地・湿原に生息又は利用する主な動物種
- ⑬ 専門家の助言により選定した種
 ○：専門家の選定種

また、現地で確認された重要な哺乳類の確認地点を表 8-4-1-7 に示す。

表 8-4-1-7 現地で確認された重要な種の確認位置

| 分類 | 番号 | 種名 | 確認種の 生息環境 | 確認位置 | | |
|-----|----|------------|--------------|-----------------|--------------------|---------|
| | | | | 変更の可能性 がある範囲 | 変更の可能性がある範囲外 | |
| | | | | | 変更の可能性が ある範囲の近傍 | 相当離れた地域 |
| 哺乳類 | 01 | コウベモグラ | 草地 | | ○ | ○ |
| | 02 | ホンドタヌキ | 河川敷 | | | ○ |
| | 03 | ホンシュウカヤネズミ | 草地 | | ○ | ○ |

ウ) 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である哺乳類の生息の状況及び生息環境の状況

調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかった。

イ. 鳥類

ア) 鳥類の状況

現地調査において16目40科111種の鳥類が確認された(「資料編 13-1-2 鳥類」参照)。

現地調査結果の概要を表 8-4-1-8 に示す。

表 8-4-1-8 鳥類現地調査結果の概要

| 調査時期 | 確認種数 | 主な確認種 |
|------|------------|--|
| 春季 | 14目33科57種 | キジ、マガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、コチドリ、トビ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ヤマガラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、クロツグミ等 |
| 繁殖期 | 14目33科53種 | キジ、マガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ホトトギス、コチドリ、イソシギ、トビ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ヤマガラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ等 |
| 夏季 | 12目29科43種 | コジュケイ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ホトトギス、イソシギ、トビ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ヤマガラ、ヒヨドリ、ヤブサメ、メジロ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ等 |
| 秋季 | 13目32科70種 | コジュケイ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、アマツバメ、イソシギ、トビ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ヤマガラ、ヒバリ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、カワラヒワ等 |
| 冬季 | 12目30科71種 | マガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、イソシギ、トビ、カワセミ、コゲラ、チョウゲンボウ、ハシボソガラス、キクイタダキ、ヤマガラ、ヒバリ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、シメ、ホオジロ等 |
| 計 | 16目40科111種 | |

1) 重要な鳥類の分布、生息状況及び生息環境の状況

文献調査及び現地調査により確認された重要な鳥類は13目26科57種であった。文献及び現地で確認された重要な鳥類とその選定基準を表8-4-1-9に示す。

表 8-4-1-9(1) 重要な鳥類確認種一覧

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 確認状況 | | 選定基準 | | | | | | | | |
|-----|--------|---------|---------|-------|----|------|---|------|----|----|----|----|----|--|
| | | | | 文献 | 現地 | ① | ② | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑫ | ⑬ | |
| 1 | キジ | キジ | ウズラ | ○ | | | | | VU | VU | DD | | | |
| 2 | カモ | カモ | オシドリ | ○ | | | | | DD | | | | | |
| 3 | | | カワアイサ | ○ | ○ | | | | | VU | | | | |
| 4 | コウノトリ | サギ | ヨシゴイ | ○ | | | | | NT | EN | EN | | | |
| 5 | | | ミゾゴイ | ○ | | | | | VU | EN | EN | | | |
| 6 | | | チュウサギ | ○ | | | | | | NT | | NT | | |
| 7 | | | クロサギ | ○ | | | | | | | VU | | | |
| 8 | ツル | クイナ | クイナ | ○ | | | | | | NT | NT | | | |
| 9 | | | ヒクイナ | ○ | | | | | NT | VU | VU | | | |
| 10 | カッコウ | カッコウ | ジュウイチ | ○ | | | | | | VU | | | | |
| 11 | | | ツツドリ | ○ | | | | | | NT | | | | |
| 12 | | | カッコウ | ○ | | | | | | | | NT | | |
| 13 | ヨタカ | ヨタカ | ヨタカ | ○ | | | | 春日井市 | NT | VU | CR | | | |
| 14 | チドリ | チドリ | ケリ | ○ | ○ | | | | | DD | | | | |
| 15 | | | イカルチドリ | ○ | ○ | | | | | | VU | NT | | |
| 16 | | | シロチドリ | ○ | | | | | | VU | NT | NT | | |
| 17 | | シギ | ヤマシギ | ○ | | | | | | | NT | NT | | |
| 18 | | | オオジシギ | ○ | | | | | | NT | CR | VU | | |
| 19 | | | オグロシギ | ○ | | | | | | | VU | VU | | |
| 20 | | | ツルシギ | ○ | | | | | | VU | VU | EN | | |
| 21 | | | タカブシギ | ○ | | | | | | VU | VU | VU | | |
| 22 | | | ハマシギ | ○ | | | | | | | NT | | | |
| 23 | | | タマシギ | タマシギ | ○ | | | | | | VU | VU | VU | |
| 24 | | | カモメ | コアジサシ | ○ | | | | 国際 | | VU | NT | VU | |
| 25 | | タカ | ミサゴ | ミサゴ | ○ | ○ | | | | | NT | NT | NT | |
| 26 | | | タカ | ハチクマ | ○ | ○ | | | | | NT | VU | VU | |
| 27 | | | | オジロワシ | ○ | | 天 | 国内 | | | VU | | | |
| 28 | チュウヒ | | | ○ | | | | | | EN | EN | VU | | |
| 29 | ツミ | | | ○ | ○ | | | | | | NT | NT | | |
| 30 | ハイタカ | | | ○ | ○ | | | | | | NT | | NT | |
| 31 | オオタカ | | | ○ | ○ | | | 国内 | | | NT | NT | NT | |
| 32 | サシバ | | | ○ | ○ | | | | | | VU | VU | VU | |
| 33 | クマタカ | | | ○ | | | | 国内 | | | EN | EN | | |
| 34 | フクロウ | フクロウ | オオコノハズク | ○ | | | | | | | NT | NT | | |
| 35 | | | コノハズク | ○ | | | | 愛知県 | | | CR | EN | | |
| 36 | | | フクロウ | ○ | | | | | | | NT | VU | | |
| 37 | | | アオバズク | ○ | | | | | | | NT | VU | | |
| 38 | ブッポウソウ | カワセミ | アカショウビン | ○ | | | | | | VU | | | | |
| 39 | | | ヤマセミ | ○ | | | | | | | EN | | | |
| 40 | | ブッポウソウ | ブッポウソウ | ○ | ○ | | | | | EN | CR | | | |
| 41 | キツツキ | キツツキ | オオアカゲラ | ○ | | | | | | EN | | | | |
| 42 | ハヤブサ | ハヤブサ | ハヤブサ | ○ | ○ | | | 国内 | | VU | EN | VU | | |
| 43 | スズメ | サンショウクイ | サンショウクイ | ○ | ○ | | | | | VU | NT | NT | | |

表 8-4-1-9(2) 重要な鳥類確認種一覧

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 確認状況 | | 選定基準 | | | | | | | |
|-----|------|---------|---------|------|------|------|-----|-----|------|------|------|-----|-----|
| | | | | 文献 | 現地 | ① | ② | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑫ | ⑬ |
| 44 | スズメ | カササギヒタキ | サンコウチョウ | ○ | | | | | | NT | | | |
| 45 | | モズ | アカモズ | ○ | | | | | EN | | | | |
| 46 | | ツバメ | コシアカツバメ | ○ | | | | | | | VU | | |
| 47 | | ミソサザイ | ミソサザイ | ○ | ○ | | | | | | NT | | |
| 48 | | カワガラス | カワガラス | ○ | | | | | | | VU | | |
| 49 | | ヒタキ | マミジロ | | ○ | | | | | | EN | | |
| 50 | | | クロツグミ | | ○ | | | | | | NT | | |
| 51 | | | アカハラ | | ○ | ○ | | | | | | VU | |
| 52 | | | コマドリ | | ○ | | | | | | | VU | |
| 53 | | | コルリ | | ○ | | | | | | | NT | |
| 54 | | | コサメビタキ | | ○ | | | | | | | NT | |
| 55 | | アトリ | コイカル | | ○ | | | | | | | VU | |
| 56 | | ホオジロ | ホオアカ | | ○ | | | | | | | VU | |
| 57 | | | ノジコ | | ○ | | | | | NT | VU | DD | |
| 計 | 13 目 | 26 科 | 57 種 | 57 種 | 14 種 | 1 種 | 5 種 | 2 種 | 28 種 | 47 種 | 33 種 | 0 種 | 0 種 |

注 1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。

注 2. 分類、配列等は、原則として「日本鳥類目録改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

注 3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号)

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種

⑦「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和 48 年、愛知県条例第 3 号)

「自然環境の保全を推進する条例」(平成 24 年、春日井市)

愛知県：愛知県指定希少野生動植物、春日井市：春日井市指定希少野生動植物

⑧「環境省第 4 次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類・昆虫類、陸産貝類・淡水産貝類、甲殻类等」(平成 24 年、環境省)

「環境省第 4 次レッドリスト 汽水・淡水魚類」(平成 25 年、環境省)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑨「レッドデータブックあいち 2009」(平成 21 年、愛知県)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧

DD：情報不足、LP：地域個体群

⑩「レッドデータブックなごや 2010-2004 年版補遺」(平成 22 年、名古屋市)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧

DD：情報不足、LP：地域個体群

⑫「湿地・湿原生態系保全の考え方～適切な保全活動の推進を目指して～」(平成 19 年 3 月、愛知県)

○：湿地・湿原に生息又は利用する主な動物種

⑬専門家の助言により選定した種

○：選定種

また、現地で確認された重要な鳥類の確認地点を表 8-4-1-10 に示す。

表 8-4-1-10 現地で確認された重要な種の確認位置

| 分類 | 番号 | 種名 | 確認種の生息環境 | 確認位置 | | |
|----|----|---------|------------|-----------------|--------------------|---------|
| | | | | 変更の可能性 がある範囲 | 変更の可能性がある範囲外 | |
| | | | | | 変更の可能性が ある範囲の近傍 | 相当離れた地域 |
| 鳥類 | 01 | カワアイサ | 水辺 | | | ○ |
| | 02 | ケリ | 耕作地、水辺 | | ○ | ○ |
| | 03 | イカルチドリ | ため池、河川 | | | ○ |
| | 04 | ミサゴ | 丘陵地 | | | ○ |
| | 05 | ハチクマ | 丘陵地 | | | ○ |
| | 06 | ツミ | 樹林 | | | ○ |
| | 07 | ハイタカ | 丘陵地 | | | ○ |
| | 08 | オオタカ | 丘陵地、樹林 | | ○ | ○ |
| | 09 | サシバ | 樹林 | | | ○ |
| | 10 | ブッポウソウ | 樹林 | | ○ | |
| | 11 | ハヤブサ | 市街地 | | | ○ |
| | 12 | サンショウクイ | 樹林、耕作地、住宅地 | | ○ | ○ |
| | 13 | ミソサザイ | 樹林 | | | ○ |
| | 14 | アカハラ | 河川 | | | ○ |

り) 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である鳥類の生息の状況及び生息環境の状況

調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかった。

ウ. 爬虫類

7) 爬虫類の状況

現地調査において2目8科12種の爬虫類が確認された（「資料編 13-1-3 爬虫類」参照）。現地調査結果の概要を表 8-4-1-11 に示す。

表 8-4-1-11 爬虫類現地調査結果の概要

| 調査時期 | 確認種数 | 主な確認種 |
|------|---------|--|
| 春季 | 2目7科7種 | アカミミガメ、ニホンスッポン、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、ヒバカリ、ニホンマムシ |
| 夏季 | 2目7科11種 | クサガメ、ニホンイシガメ、アカミミガメ、ニホンスッポン、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシ、ニホンマムシ等 |
| 秋季 | 2目6科9種 | クサガメ、ニホンイシガメ、アカミミガメ、ニホンスッポン、ニホンヤモリ、ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、ヒバカリ、ニホンマムシ |
| 計 | 2目8科12種 | |

4) 重要な爬虫類の分布、生息状況及び生息環境の状況

文献調査及び現地調査により確認された重要な爬虫類は2目3科8種であった。文献及び現地で確認された重要な爬虫類とその選定基準を表 8-4-1-12 に示す。

表 8-4-1-12 重要な爬虫類確認種一覧

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 確認状況 | | 選定基準 | | | | | | | |
|-----|----|------|---------|------|----|------|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | 文献 | 現地 | ① | ② | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑫ | ⑬ |
| 1 | カメ | イシガメ | クサガメ | ○ | | | | | | | NT | | |
| 2 | | | ニホンイシガメ | ○ | ○ | | | | NT | | NT | | |
| 3 | | スッポン | ニホンスッポン | ○ | ○ | | | | DD | DD | VU | | |
| 4 | 有鱗 | ヘビ | タカチホヘビ | ○ | | | | | | DD | | | |
| 5 | | | シマヘビ | ○ | | | | | | | NT | | |
| 6 | | | ヒバカリ | ○ | | | | | | | NT | | |
| 7 | | | シロマダラ | ○ | | | | | | DD | VU | | |
| 8 | | | ヤマカガシ | ○ | | | | | | | NT | | |
| 計 | 2目 | 3科 | 8種 | 8種 | 2種 | 0種 | 0種 | 0種 | 2種 | 3種 | 7種 | 0種 | 0種 |

注1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。

注2. 分類、配列等は、原則として「日本産爬虫両生類標準和名」(平成24年、日本爬虫両棲類学会)に準拠した。

注3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①「文化財保護法」(昭和25年、法律第214号)

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年、法律第75号)

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種

⑦「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和48年、愛知県条例第3号)

「自然環境の保全を推進する条例」(平成24年、春日井市)

愛知県：愛知県指定希少野生動植物、春日井市：春日井市指定希少野生動植物

⑧「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類・昆虫類、陸産貝類・淡水産貝類、甲殻類等」(平成24年、環境省)

「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」(平成25年、環境省)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類

VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑨「レッドデータブックあいち2009」(平成21年、愛知県)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧

DD：情報不足、LP：地域個体群

⑩「レッドデータブックなごや2010-2004年版補遺」(平成22年、名古屋市)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧

DD：情報不足、LP：地域個体群

⑫「湿地・湿原生態系保全の考え方～適切な保全活動の推進を目指して～」(平成19年3月、愛知県)

○：湿地・湿原に生息又は利用する主な動物種

⑬専門家の助言により選定した種

○：選定種

また、現地で確認された重要な爬虫類の確認地点を表 8-4-1-13 に示す。

表 8-4-1-13 現地で確認された重要な種の確認位置

| 分類 | 番号 | 種名 | 確認種の生息環境 | 確認位置 | | |
|-----|----|---------|-----------|-----------------|--------------------|---------|
| | | | | 改変の可能性 がある範囲 | 改変の可能性がある範囲外 | |
| | | | | | 改変の可能性が ある範囲の近傍 | 相当離れた地域 |
| 爬虫類 | 01 | ニホンイシガメ | ため池、河川 | | | ○ |
| | 02 | ニホンスッポン | 水辺、石垣、河川敷 | | | ○ |

ウ) 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である爬虫類の生息の状況及び生息環境の状況

調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかった。

エ. 両生類

7) 両生類の状況

現地調査において2目6科11種の両生類が確認された（「資料編 13-1-4 両生類」参照）。現地調査結果の概要を表 8-4-1-14 に示す。

表 8-4-1-14 両生類現地調査結果の概要

| 調査時期 | 確認種数 | 主な確認種 |
|------|---------|---|
| 早春季 | 2目5科7種 | アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ウシガエル、ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル等 |
| 春季 | 1目4科8種 | アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ウシガエル、タゴガエル、トノサマガエル等 |
| 夏季 | 1目3科6種 | ニホンアマガエル、ウシガエル、ツチガエル、トノサマガエル、ヌマガエル等 |
| 秋季 | 2目4科7種 | ニホンアマガエル、ウシガエル、トノサマガエル、ニホンアカガエル、ヌマガエル等 |
| 計 | 2目6科11種 | |

1) 重要な両生類の分布、生息状況及び生息環境の状況

文献調査及び現地調査により確認された重要な両生類は2目5科12種であった。文献及び現地で確認された重要な両生類とその選定基準を表 8-4-1-15 に示す。

表 8-4-1-15 重要な両生類確認種一覧

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 確認状況 | | 選定基準 | | | | | | | | |
|-----|----|-----------|--------------|------|----|------|----|------|----|-----|----|----|----|--|
| | | | | 文献 | 現地 | ① | ② | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑫ | ⑬ | |
| 1 | 有尾 | サンショウウオ | カスミサンショウウオ | ○ | | | | | VU | EN | CR | | | |
| 2 | | | コガタブチサンショウウオ | ○ | | | | | NT | DD | | | | |
| 3 | | | ヒダサンショウウオ | ○ | | | | | NT | NT | | | | |
| 4 | | オオサンショウウオ | ○ | | 特天 | | | | VU | EN | | | | |
| 5 | | イモリ | アカハライモリ | ○ | | | | | NT | DD | CR | | | |
| 6 | 無尾 | アカガエル | ナゴヤダルマガエル | ○ | | | | 春日井市 | EN | VU | CR | | | |
| 7 | | | ツチガエル | ○ | ○ | | | | | DD | EN | | ○ | |
| 8 | | | トノサマガエル | ○ | ○ | | | | NT | | VU | | | |
| 9 | | | ナガレタゴガエル | ○ | | | | 愛知県 | | | CR | | | |
| 10 | | | ニホンアカガエル | ○ | | | | | | | | EN | | |
| 11 | | | ヤマアカガエル | ○ | | | | | | | DD | | | |
| 12 | | アオガエル | カジカガエル | ○ | | | | | | | NT | | | |
| 計 | 2目 | 5科 | 12種 | 12種 | 2種 | 1種 | 0種 | 2種 | 7種 | 10種 | 6種 | 0種 | 1種 | |

注 1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。

注 2. 分類、配列等は、原則として「日本産爬虫両生類標準和名」（平成 24 年、日本爬虫両棲類学会）に準拠した。

注 3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①「文化財保護法」（昭和 25 年、法律第 214 号）

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年、法律第 75 号）

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種

⑦「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」（昭和 48 年、愛知県条例第 3 号）

「自然環境の保全を推進する条例」（平成 24 年、春日井市）

愛知県：愛知県指定希少野生動植物、春日井市：春日井市指定希少野生動植物

⑧「環境省第 4 次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類・昆虫類、陸産貝類・淡水産貝類、甲殻類等」（平成 24 年、環境省）

「環境省第 4 次レッドリスト 汽水・淡水魚類」（平成 25 年、環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑨「レッドデータブックあいち 2009」（平成 21 年、愛知県）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧

DD：情報不足、LP：地域個体群

⑩「レッドデータブックなごや 2010-2004 年版補遺」（平成 22 年、名古屋市）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧

DD：情報不足、LP：地域個体群

⑫「湿地・湿原生態系保全の考え方～適切な保全活動の推進を目指して～」(平成 19 年 3 月、愛知県)

○：湿地・湿原に生息又は利用する主な動物種

⑬専門家の助言により選定した種

○：選定種

また、現地で確認された重要な両生類の確認地点を表 8-4-1-16 に示す。

表 8-4-1-16 現地で確認された重要な種の確認位置

| 分類 | 番号 | 種名 | 確認種の生息環境 | 確認位置 | | |
|-----|----|---------|----------|-----------------|--------------------|---------|
| | | | | 改変の可能性 がある範囲 | 改変の可能性がある範囲外 | |
| | | | | | 改変の可能性が ある範囲の近傍 | 相当離れた地域 |
| 両生類 | 01 | ツチガエル | 谷部 | | | ○ |
| | 02 | トノサマガエル | 水田、水路 | ○ | ○ | ○ |

り) 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である両生類の生息の状況及び生息環境の状況

調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかった。

オ. 昆虫類

7) 昆虫類の現状

現地調査において20目262科1098種の昆虫類が確認された(「資料編 13-1-5 昆虫類」参照)。現地調査結果の概要を表 8-4-1-17 に示す。

表 8-4-1-17 昆虫類現地調査結果の概要

| 調査時期 | 確認種数 | 主な確認種 |
|------|---------------|---|
| 早春季 | 1目1科1種 | ギフチョウ |
| 春季 | 19目174科546種 | シオカラトンボ、モリチャバネゴキブリ、ケラ、クビキリギス、シブイロカヤキリ、ツチイナゴ、ハラヒシバツタ、ハルゼミ、アメンボ、オオクロツヤヒラタゴミムシ、ウスアカクロゴモクムシ、センチコガネ、セマダラコガネ、サビキコリ、ウリハムシ、キアゲハ、ナミアゲハ、ゴマダラチョウ、モンキチョウ、モンシロチョウ等 |
| 夏季 | 18目216科731種 | ギンヤンマ、シオカラトンボ、モリチャバネゴキブリ、ケラ、トノサマバツタ、ハラヒシバツタ、アメンボ、イネホソミドリカスミカメ、オオクロツヤヒラタゴミムシ、ウスアカクロゴモクムシ、センチコガネ、ナナホシテントウ、ウリハムシ、クロヤマアリ、トビイロケアリ、コガタスズメバチ、ニホンミツバチ、キアゲハ、ナミアゲハ、ベニシジミ等 |
| 秋季 | 16目149科418種 | ギンヤンマ、アキアカネ、モリチャバネゴキブリ、チョウセンカマキリ、エンマコオロギ、アオマツムシ、トノサマバツタ、ハラヒシバツタ、イネホソミドリカスミカメ、オオクロツヤヒラタゴミムシ、ウスアカクロゴモクムシ、ナナホシテントウ、ウリハムシ、クロヤマアリ、トビイロケアリ、オオスズメバチ、ニホンミツバチ、ヒメアカタテハ、キタテハ、ヒメウラナミジャノメ等 |
| 計 | 20目262科1,098種 | |

1) 重要な昆虫類の分布、生息状況及び生息環境の状況

文献調査及び現地調査により確認された重要な昆虫類は9目59科146種であった。文献及び現地で確認された重要な昆虫類とその選定基準を表8-4-1-18に示す。

表 8-4-1-18(1) 重要な昆虫類確認種一覧

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 確認状況 | | 選定基準 | | | | | | | | |
|-----|------|---------|------------|------|----|------|----|---|----|----|----|---|---|--|
| | | | | 文献 | 現地 | ① | ② | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑫ | ⑬ | |
| 1 | トンボ | イトトンボ | ムスジイトトンボ | ○ | | | | | | | NT | | | |
| 2 | | | オオイトトンボ | ○ | | | | | | VU | NT | | | |
| 3 | | | ベニイトトンボ | ○ | | | | | NT | VU | EN | | | |
| 4 | | | ヒヌマイトンボ | ○ | | | | | EN | EN | EX | | | |
| 5 | | | モートンイトトンボ | ○ | | | | | NT | NT | NT | | | |
| 6 | | モノサシトンボ | グンバイトンボ | ○ | | | | | NT | EN | | | | |
| 7 | | アオイトトンボ | コバネアオイトトンボ | ○ | | | | | EN | CR | EX | | | |
| 8 | | ムカシヤンマ | ムカシヤンマ | ○ | ○ | | | | | | CR | ○ | | |
| 9 | | サナエトンボ | キイロサナエ | ○ | | | | | NT | NT | EN | | | |
| 10 | | | ホンサナエ | ○ | | | | | | | EN | | | |
| 11 | | | ナゴヤサナエ | ○ | | | | | VU | NT | NT | | | |
| 12 | | | メガネサナエ | ○ | | | | | VU | NT | NT | | | |
| 13 | | | タベサナエ | ○ | | | | | NT | | | | | |
| 14 | | | フタスジサナエ | ○ | | | | | NT | VU | VU | | | |
| 15 | | | オグマサナエ | ○ | | | | | NT | VU | VU | | | |
| 16 | | ヤンマ | ネアカヨシヤンマ | ○ | | | | | NT | VU | VU | | | |
| 17 | | | アオヤンマ | ○ | | | | | NT | VU | VU | | | |
| 18 | | | マルタンヤンマ | ○ | | | | | | | NT | | | |
| 19 | | | コシボソヤンマ | ○ | | | | | | | NT | | | |
| 20 | | | サラサヤンマ | ○ | | | | | | | NT | | | |
| 21 | | エゾトンボ | トラフトンボ | ○ | | | | | | NT | VU | | | |
| 22 | | | キイロヤマトンボ | ○ | | | | | NT | NT | CR | | | |
| 23 | | | ハネビロエゾトンボ | ○ | | | | | VU | VU | DD | | | |
| 24 | | | エゾトンボ | ○ | | | | | | EN | EN | | | |
| 25 | | トンボ | ベッコウトンボ | ○ | | | 国内 | | CR | CR | CR | | | |
| 26 | | | ハラビロトンボ | | ○ | | | | | | | ○ | | |
| 27 | | | ハッチョウトンボ | ○ | ○ | | | | | | NT | ○ | | |
| 28 | | | ヒメアカネ | | ○ | | | | | | | | ○ | |
| 29 | | | キトンボ | ○ | | | | | | EN | EN | | | |
| 30 | | | マダラナニワトンボ | ○ | | | | | EN | EN | EX | | | |
| 31 | | | オオキトンボ | ○ | | | | | EN | CR | CR | | | |
| 32 | ゴキブリ | オオゴキブリ | ○ | | | | | | DD | NT | | | | |
| 33 | カマキリ | カマキリ | ○ | | | | | | NT | | | | | |
| 34 | | ヒメカマキリ | ○ | | | | | | | NT | | | | |

表 8-4-1-18(2) 重要な昆虫類確認種一覧

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 確認状況 | | 選定基準 | | | | | | | | | |
|-----|------------|----------------|------------------|------------------|----|------|---|---|----|----|----|----------|----|----|---|
| | | | | 文献 | 現地 | ① | ② | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑫ | ⑬ | | |
| 35 | バッタ | コロギス | コロギス | ○ | | | | | | | NT | | | | |
| 36 | | アリツカコ オロギ | アリツカコオロ ギ | ○ | | | | | | | DD | | | | |
| 37 | | バッタ | ヤマトマダラバ ッタ | ヤマトマダラバ ッタ | ○ | | | | | | VU | | | | |
| 38 | | | セグロイナゴ | セグロイナゴ | ○ | | | | | | | NT | | | |
| 39 | | | ハネナガイナゴ | ハネナガイナゴ | ○ | | | | | | | DD | | | |
| 40 | | | ヤマトフキバッ タ | ヤマトフキバッ タ | ○ | | | | | | | NT | | | |
| 41 | | ヒシバッタ | ギフヒシバッタ | ○ | | | | | | | DD | | | | |
| 42 | ナナフシ | ナナフシ | トゲナナフシ | ○ | | | | | | | NT | | | | |
| 43 | | | ホンドエダナナ フシ | ○ | | | | | | | DD | | | | |
| 44 | カメムシ | ゲンバイウ ンカ | ハウチワウンカ | ○ | | | | | VU | | NT | | | | |
| 45 | | マルウンカ | アカジマアシブ トウンカ | ○ | | | | | | NT | EN | | | | |
| 46 | | セミ | ハルゼミ | ハルゼミ | ○ | | | | | | | NT | | | |
| 47 | | | チッチゼミ | チッチゼミ | ○ | | | | | | | VU | | | |
| 48 | | ヨコバイ | スナヨコバイ | ○ | | | | | | NT | | | | | |
| 49 | | イトアメン ボ | イトアメンボ | ○ | | | | | | VU | VU | | | | |
| 50 | | カタビロア メンボ | オヨギカタビロ アメンボ | ○ | | | | | | NT | DD | | | | |
| 51 | | アメンボ | オオアメンボ | オオアメンボ | ○ | ○ | | | | | NT | EN | | | |
| 52 | | | エサキアメンボ | エサキアメンボ | ○ | | | | | | NT | NT | EN | | |
| 53 | | コオイムシ | コオイムシ | コオイムシ | ○ | ○ | | | | | NT | | DD | | |
| 54 | | | タガメ | タガメ | ○ | | | | | | VU | EN | EX | | |
| 55 | | タイコウチ | タイコウチ | タイコウチ | ○ | | | | | | | | NT | | |
| 56 | | | ヒメタイコウチ | ヒメタイコウチ | ○ | ○ | | | | | | 春日 井市 | NT | VU | ○ |
| 57 | | | ミズカマキリ | ミズカマキリ | ○ | | | | | | | | | NT | |
| 58 | ミズムシ | ホッケミズムシ | ○ | | | | | | NT | DD | | | | | |
| 59 | コバンムシ | コバンムシ | ○ | | | | | | EN | CR | CR | | | | |
| 60 | ナベブタム シ | トゲナベブタム シ | トゲナベブタム シ | ○ | | | | | | VU | EX | | | | |
| 61 | | ナベブタムシ | ナベブタムシ | ○ | | | | | | | NT | | | | |
| 62 | ツチカメム シ | シロヘリツチカ メムシ | シロヘリツチカ メムシ | ○ | | | | | | NT | | DD | | | |
| 63 | コウチュ ウ | カワラゴミ ムシ | カワラゴミムシ | ○ | | | | | | | NT | CR | | | |
| 64 | | ハンミョウ | ハンミョウ | ハンミョウ | ○ | | | | | | | VU | | | |
| 65 | | | ホソハンミョウ | ホソハンミョウ | ○ | | | | | | VU | VU | EN | | |
| 66 | | | カワラハンミョ ウ | カワラハンミョ ウ | ○ | | | | | | EN | CR | EX | | |
| 67 | | オサムシ | セアカオサムシ | セアカオサムシ | ○ | | | | | | NT | VU | | | |
| 68 | | | キベリマルクビ ゴミムシ | キベリマルクビ ゴミムシ | ○ | | | | | | EN | CR | CR | | |
| 69 | | | フタモンマルク ビゴミムシ | フタモンマルク ビゴミムシ | ○ | | | | | | EN | CR | CR | | |
| 70 | | | コハンミョウモ ドキ | コハンミョウモ ドキ | ○ | | | | | | EN | EN | | | |

表 8-4-1-18(3) 重要な昆虫類確認種一覧

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 確認状況 | | 選定基準 | | | | | | | | |
|-----|------------|-----------|-----------------|------|----|------|---|---|----|----|----|----|----|--|
| | | | | 文献 | 現地 | ① | ② | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑫ | ⑬ | |
| 71 | コウチュウ | オサムシ | オオヒョウタンゴミムシ | ○ | | | | | NT | VU | CR | | | |
| 72 | | | キバネキバナガミズギワゴミムシ | ○ | | | | | VU | NT | | | | |
| 73 | | | ヒトツメアオゴミムシ | ○ | | | | | | NT | VU | | | |
| 74 | | | クビナガキベリアオゴミムシ | ○ | | | | | | DD | VU | | | |
| 75 | | コガシラミズムシ | クビボソコガシラミズムシ | ○ | | | | | | DD | NT | | | |
| 76 | | | ヒメコガシラミズムシ | ○ | | | | | | | NT | | | |
| 77 | | コツブゲンゴロウ | ムツボシツヤコツブゲンゴロウ | ○ | | | | | | VU | NT | CR | | |
| 78 | | ゲンゴロウ | コクロマメゲンゴロウ | ○ | | | | | | | | | CR | |
| 79 | | | トダセスジゲンゴロウ | ○ | | | | | | VU | NT | DD | | |
| 80 | | | ゲンゴロウ | ○ | | | | | | VU | EN | EX | | |
| 81 | | | コガタノゲンゴロウ | ○ | | | | | | VU | EX | EX | | |
| 82 | | | シャープゲンゴロウモドキ | ○ | | | | | | | CR | EX | | |
| 83 | | | マルガタゲンゴロウ | ○ | | | | | | | VU | CR | EX | |
| 84 | | | シマゲンゴロウ | ○ | | | | | | | NT | NT | VU | |
| 85 | スジゲンゴロウ | | ○ | | | | | | | EX | EX | EX | | |
| 86 | マダラシマゲンゴロウ | | ○ | | | | | | | CR | EX | EX | | |
| 87 | ミズスマシ | | オオミズスマシ | ○ | | | | | | NT | | NT | | |
| 88 | | コオナガミズスマシ | ○ | | | | | | VU | NT | VU | | | |
| 89 | | ミズスマシ | ○ | | | | | | | VU | NT | | | |
| 90 | ホソガムシ | ヤマトホソガムシ | ○ | | | | | | NT | NT | DD | | | |
| 91 | ガムシ | ヒメシジミガムシ | ○ | | | | | | | | | DD | | |
| 92 | | スジヒラタガムシ | ○ | | | | | | | NT | | | | |
| 93 | | コガムシ | | ○ | | | | | | DD | | | | |
| 94 | | ガムシ | ○ | | | | | | | NT | | VU | | |
| 95 | エンマムシ | ヤマトエンマムシ | ○ | | | | | | | | NT | | | |
| 96 | シデムシ | ヤマトモンシデムシ | ○ | | | | | | | NT | VU | EN | | |
| 97 | クワガタムシ | マダラクワガタ | ○ | | | | | | | | | DD | | |
| 98 | | オオクワガタ | ○ | | | | | | | VU | CR | CR | | |
| 99 | | ヒラタクワガタ | ○ | | | | | | | | | NT | | |
| 100 | コガネムシ | ミツノエンマコガネ | ○ | | | | | | | | | VU | | |
| 101 | | ヤマトアオドウガネ | | ○ | | | | | | | | NT | | |

表 8-4-1-18(4) 重要な昆虫類確認種一覧

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 確認状況 | | 選定基準 | | | | | | | | |
|-----|-------|------------|----------------|--------|----|------|---|---|------|----|----|----|----|---|
| | | | | 文献 | 現地 | ① | ② | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑫ | ⑬ | |
| 102 | コウチュウ | コガネムシ | アカマダラコガネ | ○ | | | | | | DD | NT | EN | | |
| 103 | | | コカブトムシ | ○ | | | | | | | | NT | | |
| 104 | | タマムシ | クロマダラタマムシ | ○ | | | | | | | VU | EN | | |
| 105 | | ホタル | ヒメボタル | ○ | ○ | | | | | | | | NT | |
| 106 | | | ゲンジボタル | ○ | | | | | | | | | EN | |
| 107 | | | ヘイケボタル | ○ | | | | | | | | | EN | |
| 108 | | カッコウムシ | ヤマトヒメメダカカッコウムシ | ○ | | | | | | | | | DD | |
| 109 | | ツチハンミョウ | マメハンミョウ | ○ | | | | | | | | | VU | |
| 110 | | カミキリムシ | ケブカマルクビカミキリ | ○ | | | | | | | | NT | | |
| 111 | | | ヨツボシカミキリ | ○ | | | | | | EN | EN | CR | | |
| 112 | | | オオシロカミキリ | ○ | | | | | | | | | CR | |
| 113 | | ハムシ | カツラネクイハムシ | ○ | | | | | | | | VU | | |
| 114 | | | キオビクビボソハムシ | ○ | | | | | | | | DD | | |
| 115 | | ハチ | コマユバチ | ウマノオバチ | ○ | | | | | | NT | NT | | |
| 116 | アリ | | トゲアリ | | ○ | | | | | VU | | | | |
| 117 | スズメバチ | | ヤマトアシナガバチ | ○ | ○ | | | | | | DD | | | |
| 118 | | | モンスズメバチ | ○ | | | | | | | DD | | | |
| 119 | アナバチ | ニッポンハナダカバチ | ○ | | | | | | | VU | NT | | | |
| 120 | チョウ | セセリチョウ | ミヤマセセリ | ○ | | | | | | | | VU | | |
| 121 | | | ミヤマチャバナセセリ | ○ | | | | | | | | EN | CR | |
| 122 | | | チャマダラセセリ | ○ | | | | | | EN | CR | | | |
| 123 | | アゲハチョウ | ジャコウアゲハ | ○ | | | | | | | | | NT | |
| 124 | | | ギフチョウ | ○ | ○ | | | | 春日井市 | VU | NT | CR | | ○ |
| 125 | | シロチョウ | ツマグロキチョウ | ○ | | | | | | EN | | NT | | |
| 126 | | | スジボソヤマキチョウ | ○ | | | | | | | EN | | | |
| 127 | | シジミチョウ | ウラゴマダラシジミ | ○ | | | | | | | | | NT | |
| 128 | | | ウラクロシジミ | ○ | | | | | | | | | VU | |
| 129 | | | ゴマシジミ | ○ | | | | | | CR | CR | | | |
| 130 | | | ヒメシジミ | ○ | | | | | | NT | CR | | | |
| 131 | | | シルビアシジミ | ○ | | | | | | EN | EX | EX | | |
| 132 | | タテハチョウ | ウラギンスジヒョウモン | ○ | | | | | | VU | NT | EN | | |
| 133 | | | ウラギンヒョウモン | ○ | | | | | | | | EN | | |
| 134 | | | ヒョウモンモドキ | ○ | | | | | | CR | EX | | | |
| 135 | | | ヒオドシチョウ | ○ | | | | | | | | | NT | |
| 136 | | | オオムラサキ | ○ | | | | | | NT | NT | | | |

表 8-4-1-18(5) 重要な昆虫類確認種一覧

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 確認状況 | | 選定基準 | | | | | | | | | |
|-----|-----|---------|----------|-------------|-----|------|----|-----|-----|-----|------|----|----|--|--|
| | | | | 文献 | 現地 | ① | ② | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑫ | ⑬ | | |
| 137 | チョウ | ジャノメチョウ | ヒメヒカゲ | ○ | | | | 愛知県 | CR | CR | EX | | | | |
| 138 | | | クロヒカゲモドキ | ○ | | | | | EN | VU | | | | | |
| 139 | | | ジャノメチョウ | ○ | | | | | | | EX | | | | |
| 140 | | | ウラナミジャノメ | ○ | | | | | VU | VU | CR | | | | |
| 141 | | ヤガ | | マダラウスズミケンモン | ○ | | | | | | DD | | | | |
| 142 | | | | ウスベニキョトウ | ○ | | | | | | DD | | | | |
| 143 | | | | アトジロキリガ | ○ | | | | | | | | NT | | |
| 144 | | | | トビイロアカガネヨトウ | ○ | | | | | | | | NT | | |
| 145 | | | | コシロシタバ | ○ | | | | | | | NT | | | |
| 146 | | | | トウカイツマキリアツバ | ○ | | | | | | | | DD | | |
| 計 | 9目 | 59科 | 146種 | 141種 | 13種 | 0種 | 1種 | 3種 | 78種 | 88種 | 102種 | 5種 | 1種 | | |

注 1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。

注 2. 分類、配列等は、原則として「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅱ」(平成 7 年、環境庁)に準拠した。

注 3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

- ① 「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)
 特天：特別天然記念物、天：天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号)
 国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種
- ⑦ 「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和 48 年、愛知県条例第 3 号)
 「自然環境の保全を推進する条例」(平成 24 年、春日井市)
 愛知県：愛知県指定希少野生動植物、春日井市：春日井市指定希少野生動植物
- ⑧ 「環境省第 4 次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類・昆虫類、陸産貝類・淡水産貝類、甲殻類等」(平成 24 年、環境省)
 「環境省第 4 次レッドリスト 汽水・淡水魚類」(平成 25 年、環境省)
 EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類
 VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ⑨ 「レッドデータブックあいち 2009」(平成 21 年、愛知県)
 EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧
 DD：情報不足、LP：地域個体群
- ⑩ 「レッドデータブックなごや 2010-2004 年版補遺」(平成 22 年、名古屋市)
 EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧
 DD：情報不足、LP：地域個体群
- ⑫ 「湿地・湿原生態系保全の考え方～適切な保全活動の推進を目指して～」(平成 19 年 3 月、愛知県)
 ○：湿地・湿原に生息又は利用する主な動物種
- ⑬ 専門家の助言により選定した種
 ○：選定種

また、現地で確認された重要な昆虫類の確認地点を表 8-4-1-19 に示す。

表 8-4-1-19 現地で確認された重要な種の確認位置

| 分類 | 番号 | 種名 | 確認種の生息環境 | 確認位置 | | |
|-----|----|-----------|-----------|-------------|----------------|---------|
| | | | | 変更の可能性がある範囲 | 変更の可能性がある範囲外 | |
| | | | | | 変更の可能性がある範囲の近傍 | 相当離れた地域 |
| 昆虫類 | 01 | ムカシヤンマ | 水路 | | | ○ |
| | 02 | ハラビロトンボ | 湿地 | | | ○ |
| | 03 | ハッチョウトンボ | 湿地 | | | ○ |
| | 04 | ヒメアカネ | 湿地、水路 | | | ○ |
| | 05 | オオアメンボ | 河川 | | | ○ |
| | 06 | コオイムシ | 水路 | | | ○ |
| | 07 | ヒメタイコウチ | 水路 | | ○ | ○ |
| | 08 | コガムシ | 河川、河川敷、草地 | | | ○ |
| | 09 | ヤマトアオドウガネ | 樹林、草地、河川敷 | ○ | | ○ |
| | 10 | ヒメボタル | 河川敷、外堀 | | ○ | ○ |
| | 11 | トゲアリ | 樹林 | | | ○ |
| | 12 | ヤマトアシナガバチ | 草地 | | | ○ |
| | 13 | ギフチョウ | 草地、樹林 | | | ○ |

ウ) 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である昆虫類の生息の状況及び生息環境の状況

調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかった。

カ. 魚類

7) 魚類の状況

現地調査において6目8科19種の魚類が確認された（「資料編 13-1-6 魚類」参照）。
 現地調査結果の概要を表 8-4-1-20 に示す。

表 8-4-1-20 魚類現地調査結果の概要

| 調査時期 | 確認種数 | 主な確認種 |
|------|---------|--|
| 春季 | 5目7科14種 | Carassius 属、オイカワ、カワムツ、カマツカ、ドジョウ、ナマズ、アユ、メダカ 南日本集団、ブルーギル、カワヨシノボリ等 |
| 夏季 | 5目7科17種 | コイ、Carassius 属、オイカワ、カワムツ、カマツカ、ドジョウ、ナマズ、カダヤシ、 ブルーギル、オオクチバス等 |
| 秋季 | 4目6科14種 | Carassius 属、オイカワ、カワムツ、モツゴ、タモロコ、ドジョウ、カダヤシ、 ブルーギル、オオクチバス、カワヨシノボリ等 |
| 冬季 | 5目6科11種 | コイ、Carassius 属、オイカワ、カワムツ、ドジョウ、ナマズ、カダヤシ、メダカ 南日本集団、ウキゴリ、カワヨシノボリ等 |
| 計 | 6目8科19種 | |

1) 魚類重要な魚類の分布、生息状況及び生息環境の状況

文献調査及び現地調査により確認された重要な魚類は8目12科31種であった。文献及び
 現地で確認された重要な魚類とその選定基準を表 8-4-1-21 に示す。

表 8-4-1-21(1) 重要な魚類確認種一覧

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 確認状況 | | 選定基準 | | | | | | | | |
|-----|--------|--------|-------------|------|-------|------|---|----|-----|----|----|----|----|--|
| | | | | 文献 | 現地 | ① | ② | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑫ | ⑬ | |
| 1 | ヤツメウナギ | ヤツメウナギ | スナヤツメ | ○ | | | | | VU | VU | CR | | | |
| 2 | ウナギ | ウナギ | ニホンウナギ | ○ | | | | | EN | | NT | | | |
| 3 | コイ | コイ | ゲンゴロウブナ | ○ | | | | | EN | | | | | |
| 4 | | | ギンブナ | ○ | | | | | VU | | | | | |
| 5 | | | ヤリタナゴ | ○ | | | | | NT | NT | VU | | | |
| 6 | | | アブラボテ | ○ | | | | | NT | DD | | | | |
| 7 | | | イチモンジタナゴ | ○ | | | | | CR | VU | EN | | | |
| 8 | | | タナゴ | ○ | | | | | EN | | | | | |
| 9 | | | イタセンバラ | ○ | | | 天 | 国内 | | CR | CR | | | |
| 10 | | | ゼニタナゴ | ○ | | | | | | CR | | | | |
| 11 | | | カワバタモロコ | ○ | | | | | | EN | VU | | | |
| 12 | | | ハス | ○ | | | | | | VU | | | | |
| 13 | | | ウシモツゴ | ○ | | | | | 愛知県 | CR | CR | | | |
| 14 | | | | | カワヒガイ | ○ | ○ | | | | NT | NT | | |
| 15 | | | | | ゼゼラ | ○ | | | | | VU | | VU | |
| 16 | | ドジョウ | ドジョウ | ○ | ○ | | | | DD | | | | | |
| 17 | | | コガタスジシマドジョウ | ○ | | | | | EN | NT | CR | | | |
| 18 | | | シマドジョウ | ○ | | | | | | | EN | | | |
| 19 | | | ホトケドジョウ | ○ | | | | | EN | VU | EN | | | |
| 20 | ナマズ | ナマズ | ナマズ | ○ | | | | | | | NT | | | |
| 21 | | アカザ | アカザ | ○ | | | | | VU | NT | EN | | | |
| 22 | サケ | サケ | アマゴ | ○ | | | | | NT | | | | | |
| 23 | | アユ | アユ | ○ | | | | | | | NT | | | |
| 24 | ダツ | メダカ | メダカ南日本集団 | ○ | ○ | | | | VU | NT | VU | | | |

表 8-4-1-21 (2) 重要な魚類確認種一覧

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 確認状況 | | 選定基準 | | | | | | | | |
|-----|-----|------|-----------|------|-----|------|-----|-----|------|------|------|-----|-----|--|
| | | | | 文献 | 現地 | ① | ② | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑫ | ⑬ | |
| 25 | カサゴ | カジカ | カマキリ | ○ | | | | | | VU | VU | EN | | |
| 26 | | | カジカ (中卵型) | ○ | | | | | | EN | | | | |
| 27 | | | ウツセミカジカ | ○ | | | | | | | | EN | | |
| 28 | スズキ | ドンコ | ドンコ | ○ | | | | | | NT | EN | | | |
| 29 | | ハゼ | カワアナゴ | ○ | | | | | | | VU | | | |
| 30 | | | チチブ | ○ | | | | | | | VU | | | |
| 31 | | | ウキゴリ | ○ | | | | | | | | VU | | |
| 計 | 8 目 | 12 科 | 31 種 | 31 種 | 3 種 | 1 種 | 1 種 | 1 種 | 23 種 | 14 種 | 18 種 | 0 種 | 0 種 | |

注 1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。

注 2. 分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査 最新版 平成 24 年度版生物リスト」(2012 年、リバーフロント研究所) に準拠した。

注 3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号)

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種

⑦「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和 48 年、愛知県条例第 3 号)

「自然環境の保全を推進する条例」(平成 24 年、春日井市)

愛知県：愛知県指定希少野生動植物、春日井市：春日井市指定希少野生動植物

⑧「環境省第 4 次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類・昆虫類、陸産貝類・淡水産貝類、甲殻类等」(平成 24 年、環境省)

「環境省第 4 次レッドリスト 汽水・淡水魚類」(平成 25 年、環境省)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑨「レッドデータブックあいち 2009」(平成 21 年、愛知県)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧

DD：情報不足、LP：地域個体群

⑩「レッドデータブックなごや 2010-2004 年版補遺」(平成 22 年、名古屋市)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧

DD：情報不足、LP：地域個体群

⑫「湿地・湿原生態系保全の考え方～適切な保全活動の推進を目指して～」(平成 19 年 3 月、愛知県)

○：湿地・湿原に生息又は利用する主な動物種

⑬専門家の助言により選定した種

○：選定種

また、現地で確認された重要な魚類の確認地点を表 8-4-1-22 に示す。

表 8-4-1-22 現地で確認された重要な種の確認位置

| 分類 | 番号 | 種名 | 確認種の生息環境 | 確認位置 | | |
|----|----|----------|----------|-----------------|--------------------|---------|
| | | | | 変更の可能性 がある範囲 | 変更の可能性がある範囲外 | |
| | | | | | 変更の可能性が ある範囲の近傍 | 相当離れた地域 |
| 魚類 | 01 | カワヒガイ | ため池 | | ○ | |
| | 02 | ドジョウ | 河川 | | | ○ |
| | 03 | メダカ南日本集団 | 河川、水路 | ○ | ○ | ○ |

り) 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である魚類の生息の状況及び生息環境の状況

調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかった。

キ. 底生動物（淡水産貝類含む）

7) 底生動物の状況

現地調査において22目84科170種の底生動物が確認された（「資料編 13-1-7 底生動物（淡水産貝類含む）」参照）。現地調査結果の概要を表 8-4-1-23 に示す。

表 8-4-1-23 底生動物現地調査結果の概要

| 調査時期 | 確認種数 | 主な確認種 |
|------|------------|---|
| 春季 | 16目51科90種 | サカマキガイ、シマイシビル、ミズムシ、スジエビ、アメリカザリガニ、シロハラコカゲロウ、オオフタオカゲロウ、ハグロトンボ、アメンボ、ニンギョウトビケラ等 |
| 夏季 | 20目55科95種 | サカマキガイ、シマイシビル、ミズムシ、スジエビ、アメリカザリガニ、シロハラコカゲロウ、ハグロトンボ、アメンボ、ウルマーシマトビケラ、ニンギョウトビケラ等 |
| 秋季 | 17目46科96種 | シマイシビル、ミズムシ、スジエビ、アメリカザリガニ、シロハラコカゲロウ、ハグロトンボ、オナガサナエ、アメンボ、ウルマーシマトビケラ、ニンギョウトビケラ等 |
| 冬季 | 18目47科84種 | サカマキガイ、オオマダラカゲロウ、シマイシビル、ミズムシ、スジエビ、アメリカザリガニ、シロハラコカゲロウ、ハグロトンボ、ウルマーシマトビケラ、ニンギョウトビケラ等 |
| 計 | 22目84科170種 | |

1) 重要な底生動物の分布、生息状況及び生息環境の状況

文献調査及び現地調査により確認された重要な底生動物は7目8科8種であった。文献及び現地で確認された重要な底生動物とその選定基準を表 8-4-1-24 に示す。

表 8-4-1-24 重要な底生動物確認種一覧

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 確認状況 | | 選定基準 | | | | | | | | |
|-----|---------|--------|------------|------|----|------|----|----|----|----|----|----|----|---|
| | | | | 文献 | 現地 | ① | ② | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑫ | ⑬ | |
| 1 | 原始紐舌 | タニシ | オオタニシ | ○ | | | | | | NT | | NT | | |
| 2 | 基眼 | ヒラマキガイ | ハブタエヒラマキガイ | | ○ | | | | | DD | | | | |
| 3 | イシガイ | イシガイ | フネドブガイ | | ○ | | | | | | | | | ○ |
| 4 | マルスダレガイ | シジミ | マシジミ | ○ | | | | | | VU | VU | VU | | |
| 5 | トンボ | サナエトンボ | タベサナエ | ○ | | | | | | NT | | | | |
| 6 | カメムシ | アメンボ | オオアメンボ | ○ | ○ | | | | | | NT | EN | | |
| 7 | | コオイムシ | コオイムシ | ○ | ○ | | | | | NT | | DD | | |
| 8 | コウチュウ | ガムシ | コガムシ | | ○ | | | | | DD | | | | |
| 計 | 7目 | 8科 | 8種 | 5種 | 5種 | 0種 | 0種 | 0種 | 6種 | 2種 | 4種 | 0種 | 1種 | |

注 1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。

注 2. 分類、配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査 最新版 平成 24 年度版生物リスト」(2012 年、リバーフロント研究所) に準拠した。

注 3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号)

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種

⑦「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和 48 年、愛知県条例第 3 号)

「自然環境の保全を推進する条例」(平成 24 年、春日井市)

愛知県：愛知県指定希少野生動植物、春日井市：春日井市指定希少野生動植物

⑧「環境省第 4 次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類・昆虫類、陸産貝類・淡水産貝類、甲殻類等」(平成 24 年、環境省)

「環境省第 4 次レッドリスト 汽水・淡水魚類」(平成 25 年、環境省)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑨「レッドデータブックあいち 2009」(平成 21 年、愛知県)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧

DD：情報不足、LP：地域個体群

⑩「レッドデータブックなごや 2010-2004 年版補遺」(平成 22 年、名古屋市)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 IA 類、EN：絶滅危惧 IB 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧

DD：情報不足、LP：地域個体群

⑫「湿地・湿原生態系保全の考え方～適切な保全活動の推進を目指して～」(平成 19 年 3 月、愛知県)

○：湿地・湿原に生息又は利用する主な動物種

⑬専門家の助言により選定した種

○：選定種

また、現地で確認された重要な底生動物の確認地点を表 8-4-1-25 に示す。

表 8-4-1-25 現地で確認された重要な種の確認位置

| 分類 | 番号 | 種名 | 確認種の 生息環境 | 確認位置 | | |
|------|----|------------|--------------|-----------------|--------------------|---------|
| | | | | 変更の可能性 がある範囲 | 変更の可能性がある範囲外 | |
| | | | | | 変更の可能性が ある範囲の近傍 | 相当離れた地域 |
| 底生動物 | 01 | ハブタエヒラマキガイ | 水路 | ○ | ○ | |
| | 02 | フネドブガイ | 水域 | | ○ | |

※但し、淡水産貝類を含む。

ウ) 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である底生動物の生息の状況及び生息環境の状況

調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかった。

ク. 真正クモ類

7) 真正クモ類の状況

現地調査において1目28科149種の真正クモ類が確認された（「資料編 13-1-8 真正クモ類」参照）。現地調査結果の概要を表 8-4-1-26 に示す。

表 8-4-1-26 真正クモ類現地調査結果の概要

| 調査時期 | 確認種数 | 主な確認種 |
|------|-----------|---|
| 春季 | 1目24科99種 | オオヒメグモ、チュウガタシロカネグモ、アシナガグモ、ウロコアシナガグモ、ゴミグモ、ドヨウオニグモ、ウヅキコモリグモ、ササグモ、ハナグモ、ワカバグモ、ヤハズハエトリ等 |
| 夏季 | 1目22科101種 | オオヒメグモ、チュウガタシロカネグモ、アシナガグモ、ウロコアシナガグモ、ジョロウグモ、ナガコガネグモ、ドヨウオニグモ、ウヅキコモリグモ、ササグモ、ハナグモ、ワカバグモ、ヤハズハエトリ、クワガタアリグモ等 |
| 秋季 | 1目23科95種 | オオヒメグモ、チュウガタシロカネグモ、アシナガグモ、ウロコアシナガグモ、ジョロウグモ、ドヨウオニグモ、ウヅキコモリグモ、ササグモ、ヤドカリグモ、ハナグモ、ワカバグモ、ヤハズハエトリ等 |
| 計 | 1目28科149種 | |

1) 重要な真正クモ類の分布、生息状況及び生息環境の状況

文献調査及び現地調査により確認された重要な真正クモ類は1目13科27種であった。文献及び現地で確認された重要な真正クモ類とその選定基準を表 8-4-1-27 に示す。

表 8-4-1-27 重要な真正クモ類確認種一覧

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 確認状況 | | 選定基準 | | | | | | | | | | |
|-----|----|----------|--------------|-------------|----|------|----|----|----|-----|-----|----|----|----|---|--|
| | | | | 文献 | 現地 | ① | ② | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑫ | ⑬ | | | |
| 1 | クモ | ジグモ | ワスレナグモ | ○ | | | | | NT | VU | CR | | | | | |
| 2 | | カネコトタテグモ | カネコトタテグモ | ○ | | | | | NT | VU | CR | | | | | |
| 3 | | トタテグモ | キノボリトタテグモ | ○ | | | | | NT | VU | EN | | | | | |
| 4 | | | キシノウエトタテグモ | ○ | | | | | NT | EN | CR | | | | | |
| 5 | | ヒメグモ | ギボシヒメグモ | ○ | | | | | | | NT | | | | | |
| 6 | | コガネグモ | キジロオヒキグモ | ○ | | | | | | | EN | | | | | |
| 7 | | | ビジョオニグモ | ○ | | | | | | | | NT | | | | |
| 8 | | | コガネグモ | ○ | | | | | | | NT | NT | | | | |
| 9 | | | トリノフンダマシ | ○ | | | | | | | NT | NT | | | | |
| 10 | | | オオトリノフンダマシ | ○ | | | | | | | NT | NT | | | | |
| 11 | | | シロオビトリノフンダマシ | ○ | ○ | | | | | | | VU | VU | | ○ | |
| 12 | | | アカイロトリノフンダマシ | ○ | ○ | | | | | | | VU | VU | | ○ | |
| 13 | | | スズミグモ | ○ | | | | | | | | | NT | | | |
| 14 | | | ムツトゲイセキグモ | ○ | | | | | | | | EN | CR | | | |
| 15 | | | ゲハウグモ | ○ | | | | | | | | NT | VU | | | |
| 16 | | | コモリグモ | エビチャコモリグモ | ○ | | | | | | | | VU | | | |
| 17 | | | | カコウコモリグモ | ○ | | | | | | | | | CR | | |
| 18 | | | | テジロハリゲコモリグモ | ○ | | | | | | | | EN | CR | | |
| 19 | | | | ミナミコモリグモ | ○ | | | | | | | | VU | EN | | |
| 20 | | キシダグモ | ハヤテグモ | ○ | | | | | | | | EN | | | | |
| 21 | | ササグモ | クリチャササグモ | ○ | | | | | | | | VU | | | | |
| 22 | | スオウグモ | ムロズミソレグモ | ○ | | | | | | | DD | DD | | | | |
| 23 | | フクログモ | ハマキフクログモ | ○ | | | | | | | | NT | | | | |
| 24 | | | ヤギヌマフクログモ | ○ | | | | | | | | | VU | | | |
| 25 | | ネコグモ | オビジガバチグモ | ○ | | | | | | | VU | VU | | | | |
| 26 | | ワシグモ | ヒゲナガツヤグモ | ○ | | | | | | | | NT | | | | |
| 27 | | カニグモ | アシナガカニグモ | ○ | | | | | | | VU | | | | | |
| 計 | 1目 | 13科 | 27種 | 27種 | 2種 | 0種 | 0種 | 0種 | 4種 | 17種 | 25種 | 0種 | 2種 | | | |

注 1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。

注 2. 分類、配列等は、原則として「日本産クモ類目録」(2012年、谷川明男)に準拠した。

注 3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年、法律第 75 号)

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種

⑦「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和 48 年、愛知県条例第 3 号)

「自然環境の保全を推進する条例」(平成 24 年、春日井市)

愛知県：愛知県指定希少野生動植物、春日井市：春日井市指定希少野生動植物

⑧「環境省第 4 次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類・昆虫類、陸産貝類・淡水産貝類、甲殻類等」(平成 24 年、環境省)

「環境省第 4 次レッドリスト 汽水・淡水魚類」(平成 25 年、環境省)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、

VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑨「レッドデータブックあいち 2009」(平成 21 年、愛知県)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧

DD：情報不足、LP：地域個体群

⑩「レッドデータブックなごや 2010-2004 年版補遺」(平成 22 年、名古屋市)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧 I A 類、EN：絶滅危惧 I B 類、VU：絶滅危惧 II 類、NT：準絶滅危惧

DD：情報不足、LP：地域個体群

⑫「湿地・湿原生態系保全の考え方～適切な保全活動の推進を目指して～」(平成 19 年 3 月、愛知県)

○：湿地・湿原に生息又は利用する主な動物種

⑬専門家の助言により選定した種

○：選定種

また、現地で確認された重要な真正クモ類の確認地点を表 8-4-1-28 に示す。

表 8-4-1-28 現地で確認された重要な種の確認位置

| 分類 | 番号 | 種名 | 確認種の 生息環境 | 確認位置 | | |
|-----------|----|--------------|--------------|-----------------|--------------------|---------|
| | | | | 変更の可能性 がある範囲 | 変更の可能性がある範囲外 | |
| | | | | | 変更の可能性が ある範囲の近傍 | 相当離れた地域 |
| 真正 クモ類 | 01 | シロオビトリノフンダマシ | 草地 | | ○ | ○ |
| | 02 | アカイロトリノフンダマシ | 草地 | | | ○ |

り) 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である真正クモ類の生息の状況及び生息環境の状況

調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかった。

ケ. 陸産貝類

7) 陸産貝類の状況

現地調査において1目8科21種の陸産貝類が確認された(「資料編 13-1-9 陸産貝類」参照)。現地調査結果の概要を表 8-4-1-29 に示す。

表 8-4-1-29 陸産貝類現地調査結果の概要

| 調査時期 | 確認種数 | 主な確認種 |
|------|---------|---|
| 春季 | 1目5科6種 | オカチョウジガイ、コハクガイ、チャコウラナメクジ、キビガイ、ウラジロベッコウ、オナジマイマイ |
| 夏季 | 1目6科15種 | ウスベニギセル、オカチョウジガイ、ホソオカチョウジガイ、チャコウラナメクジ、ヒメベッコウガイ、コシタカシタラガイ、ウラジロベッコウ、ウスカワマイマイ、オオケマイマイ、ヒラケマイマイ等 |
| 秋季 | 1目7科17種 | ナミコギセル、オカチョウジガイ、ナメクジ、ヤマナメクジ、ヒメベッコウガイ、オオクラヒメベッコウ、ニッポンマイマイ、ウスカワマイマイ、オオケマイマイ、ヒラマイマイ等 |
| 計 | 1目8科21種 | |

イ) 重要な陸産貝類の分布、生息状況及び生息環境の状況

文献調査及び現地調査により確認された重要な陸産貝類は1目1科1種であった。文献及び現地で確認された重要な陸産貝類とその選定基準を表 8-4-1-30 に示す。

表 8-4-1-30 重要な陸産貝類確認種一覧

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | 確認状況 | | 選定基準 | | | | | | | | |
|-----|------|----------|------------|------|----|------|----|----|----|----|----|----|----|--|
| | | | | 文献 | 現地 | ① | ② | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ | ⑫ | ⑬ | |
| 1 | マイマイ | オカモノアラガイ | ナガオカモノアラガイ | ○ | | | | | | NT | NT | EN | | |
| 計 | 1目 | 1科 | 1種 | 1種 | 0種 | 0種 | 0種 | 0種 | 1種 | 1種 | 1種 | 0種 | 0種 | |

注1. 文献調査及び現地調査によって位置情報が確認された種について確認状況欄にそれぞれ○を記載した。

注2. 分類、配列等は、原則として「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅲ」(1998年、環境庁)に準拠した。

注3. 重要な種の選定基準は以下のとおりである。

①「文化財保護法」(昭和25年、法律第214号)

特天：特別天然記念物、天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年、法律第75号)

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種

⑦「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和48年、愛知県条例第3号)

「自然環境の保全を推進する条例」(平成24年、春日井市)

愛知県：愛知県指定希少野生動植物、春日井市：春日井市指定希少野生動植物

⑧「環境省第4次レッドリスト 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類・昆虫類、陸産貝類・淡水産貝類、甲殻類等」(平成24年、環境省)

「環境省第4次レッドリスト 汽水・淡水魚類」(平成25年、環境省)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

⑨「レッドデータブックあいち2009」(平成21年、愛知県)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧

DD：情報不足、LP：地域個体群

⑩「レッドデータブックなごや2010-2004年版補遺」(平成22年、名古屋市)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧

DD：情報不足、LP：地域個体群

⑫「湿地・湿原生態系保全の考え方～適切な保全活動の推進を目指して～」(平成19年3月、愛知県)

○：湿地・湿原に生息又は利用する主な動物種

⑬専門家の助言により選定した種

○：選定種

り) 注目すべき生息地の分布並びに当該生息地が注目される理由である陸産貝類の生息の状況及び生息環境の状況

調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかった。

(2) 予測及び評価

1) 予測

ア. 予測項目

予測項目は、現地調査で確認された重要な種及び注目すべき生息地に対する工事の実施及び鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の存在による影響の程度について予測した。

イ. 予測の基本的な手法

既存の知見の引用又は解析により、重要な種及び地域個体群への影響の種類、影響の箇所、影響の程度について予測した。

ウ. 予測地域

予測地域は、工事の実施又は鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の存在に係る重要な種への影響が生じるおそれがあると認められる地域として、調査地域と同様とした。

エ. 予測対象時期

予測対象時期は、工事中及び鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の完成時とした。

オ. 予測対象種の選定

予測対象種は、文献調査及び現地調査によって対象事業実施区域及びその周囲に生息する可能性があると考えられる重要な種とした。

重要な種の予測対象種の選定結果を表 8-4-1-31 に示す。

表 8-4-1-31(1) 予測対象種の選定結果

| 分類 | 区分 | 種名 |
|-----|---|--|
| 哺乳類 | 現地調査で確認された種（3種） | コウベモグラ、ホンドタヌキ、ホンシュウカヤネズミ |
| | 文献調査において改変区域周辺に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種（11種） | ホンシュウジネズミ、ホンシュウヒミズ、ニホンキクガシラコウモリ、ホンドキツネ、ホンドテン、ホンドイタチ、ニホンアナグマ、ムササビ、ハタネズミ、ホンドアカネズミ、ホンシュウノウサギ |
| 鳥類 | 現地調査で確認された種（14種） | カワアイサ、ケリ、イカルチドリ、ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、サシバ、ブッポウソウ、ハヤブサ、サンショウクイ、ミソサザイ、アカハラ |
| | 文献調査において改変区域周辺に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種（34種） | ウズラ、オシドリ、ヨシゴイ、ミゾゴイ、チュウサギ、クイナ、ヒクイナ、カッコウ、ヨタカ、ヤマシギ、オオシギ、オグロシギ、タカブシギ、ハマシギ、タマシギ、コアジサシ、クマタカ、オオコノハズク、コノハズク、フウロウ、アオバズク、アカショウビン、ヤマセミ、サンコウチョウ、アカモズ、コシアカツバメ、カワガラス、クロツグミ、コマドリ、コルリ、コサメビタキ、コイカル、ホオアカ、ノジコ |

表 8-4-1-31(2) 予測対象種の選定結果

| 分類 | 区分 | 種名 |
|-----|---|--|
| 爬虫類 | 現地調査で確認された種 (2種) | ニホンイシガメ、ニホンスッポン |
| | 文献調査において改変区域周辺に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (6種) | クサガメ、タカチホヘビ、シマヘビ、ヒバカリ、シロマダラ、ヤマカガシ |
| 両生類 | 現地調査で確認された種 (2種) | ツチガエル、トノサマガエル |
| | 文献調査において改変区域周辺に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (7種) | カスミサンショウウオ、コガタブチサンショウウオ、アカハライモリ、ナゴヤダルマガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、カジカガエル |
| 昆虫類 | 現地調査で確認された種 (13種) | ムカシヤンマ、ハラピロトンボ、ハッチョウトンボ、ヒメアカネ、オオアメンボ、コオイムシ、ヒメタイコウチ、コガムシ、ヤマトアオドウガネ、ヒメボタル、トゲアリ、ヤマトアシナガバチ、ギフチョウ |
| | 文献調査において改変区域周辺に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種 (108種) | ムスジイトトンボ、オオイトトンボ、ベニイトトンボ、ヒヌマイトトンボ、モートンイトトンボ、グンバイトンボ、コバネアオイトトンボ、キイロサナエ、ホンサナエ、ナゴヤサナエ、メガネサナエ、タベサナエ、フタスジサナエ、オグマサナエ、ネアカヨシヤンマ、アオヤンマ、マルタンヤンマ、コンボソヤンマ、サラサヤンマ、トラフトンボ、キイロヤマトンボ、ハネピロエゾトンボ、エゾトンボ、ベッコウトンボ、キトンボ、マダラナニワトンボ、オオキトンボ、オオゴキブリ、ヒメカマキリ、コロギス、アリツカオオロギ、セグロイナゴ、ハネナガイナゴ、ヤマトフキバツタ、トゲナナフシ、ハウチワウンカ、アカジマアシブトウンカ、ハルゼミ、チッチゼミ、スナヨコバイ、イトアメンボ、エサキアメンボ、タガメ、タイコウチ、ミズカマキリ、ホッケミズムシ、コバンムシ、シロヘリツチカメムシ、カワラゴミムシ、ハンミョウ、ホソハンミョウ、カワラハンミョウ、セアカオサムシ、キベリマルクビゴミムシ、フタモンマルクビゴミムシ、コハンミョウモドキ、ヒトツメアオゴミムシ、クビナガキベリアオゴミムシ、クビボソコガシラミズムシ、ヒメコガシラミズムシ、ムツボシツヤコツブゲンゴロウ、コクロマメゲンゴロウ、トダセスジゲンゴロウ、ゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、オオミズスマシ、コオナガミズスマシ、ミズスマシ、ヒメシジミガムシ、ガムシ、スジヒラタガムシ、ヤマトエンマムシ、ヤマトモンシデムシ、マダラクワガタ、オオクワガタ、ヒラタクワガタ、ミツノエンマコガネ、アカマダラコガネ、コカブトムシ、クロマダラタマムシ、ゲンジボタル、ヘイケボタル、ヤマトヒメメダカカッコウムシ、マメハンミョウ、ケブカマルクビカミキリ、ヨツボシカミキリ、オオシロカミキリ、キオビクビボソハムシ、モンズズメバチ、ミヤマセセリ、ミヤマチャバネセセリ、ジャコウアゲハ、ツマグロキチョウ、スジボソヤマキチョウ、ウラゴマダラシジミ、ウラクロシジミ、ウラギンスジヒョウモン、ウラギンヒョウモン、ヒオドシチョウ、オオムラサキ、ヒメヒカゲ、ウラナミジャノメ、ウスベニキョトウ、アトジロキリガ、トビイロアカガネヨトウ、コシロシタバ、トウカイツマキリアツバ |

表 8-4-1-31 (3) 予測対象種の選定結果

| 分類 | 区分 | 種名 |
|-----------------------|---|---|
| 魚類 | 現地調査で確認された種(3種) | カワヒガイ、ドジョウ、メダカ南日本集団 |
| | 文献調査において改変区域周辺に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種(28種) | スナヤツメ、ニホンウナギ、ゲンゴロウブナ、ギンブナ、ヤリタナゴ、アブラボテ、イチモンジタナゴ、タナゴ、イタセンバラ、ゼニタナゴ、カワバタモロコ、ハス、ウシモツゴ、ゼゼラ、コガタスジシマドジョウ、シマドジョウ、ホトケドジョウ、ナマズ、アカザ、アマゴ、アユ、カマキリ、カジカ(中卵型)、ウツセミカジカ、ドンコ、カワアナゴ、チチブ、ウキゴリ |
| 底生動物 (淡水産 貝類含む) | 現地調査で確認された種(5種) | ハブタエヒラマキガイ、フネドブガイ (以下は昆虫類の項に含める) オオアメンボ、コオイムシ、コガムシ |
| | 文献調査において改変区域周辺に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種(3種) | オオタニシ、マシジミ、タバサナエ |
| 真正クモ類 | 現地調査で確認された種(2種) | シロオビトリノフンダマシ、アカイロトリノフンダマシ |
| | 文献調査において改変区域周辺に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種(18種) | ワスレナグモ、カネコトタテグモ、キノボリトタテグモ、キシノウエトタテグモ、ギボシヒメグモ、ビジョオニグモ、コガネグモ、トリノフンダマシ、オオトリノフンダマシ、スズミグモ、ムツトゲイセキグモ、ゲホウグモ、エビチャコモリグモ、ハヤテグモ、ハマキフクログモ、ヤギヌマフクログモ、ヒゲナガツヤグモ、アシナガカニグモ |
| 陸産貝類 | 現地調査で確認された種(0種) | |
| | 文献調査において改変区域周辺に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査で確認されなかった種(1種) | ナガオカモノアラガイ |

カ. 影響予測の手順

影響予測は、図 8-4-1-2 に示す手順に基づき行った。

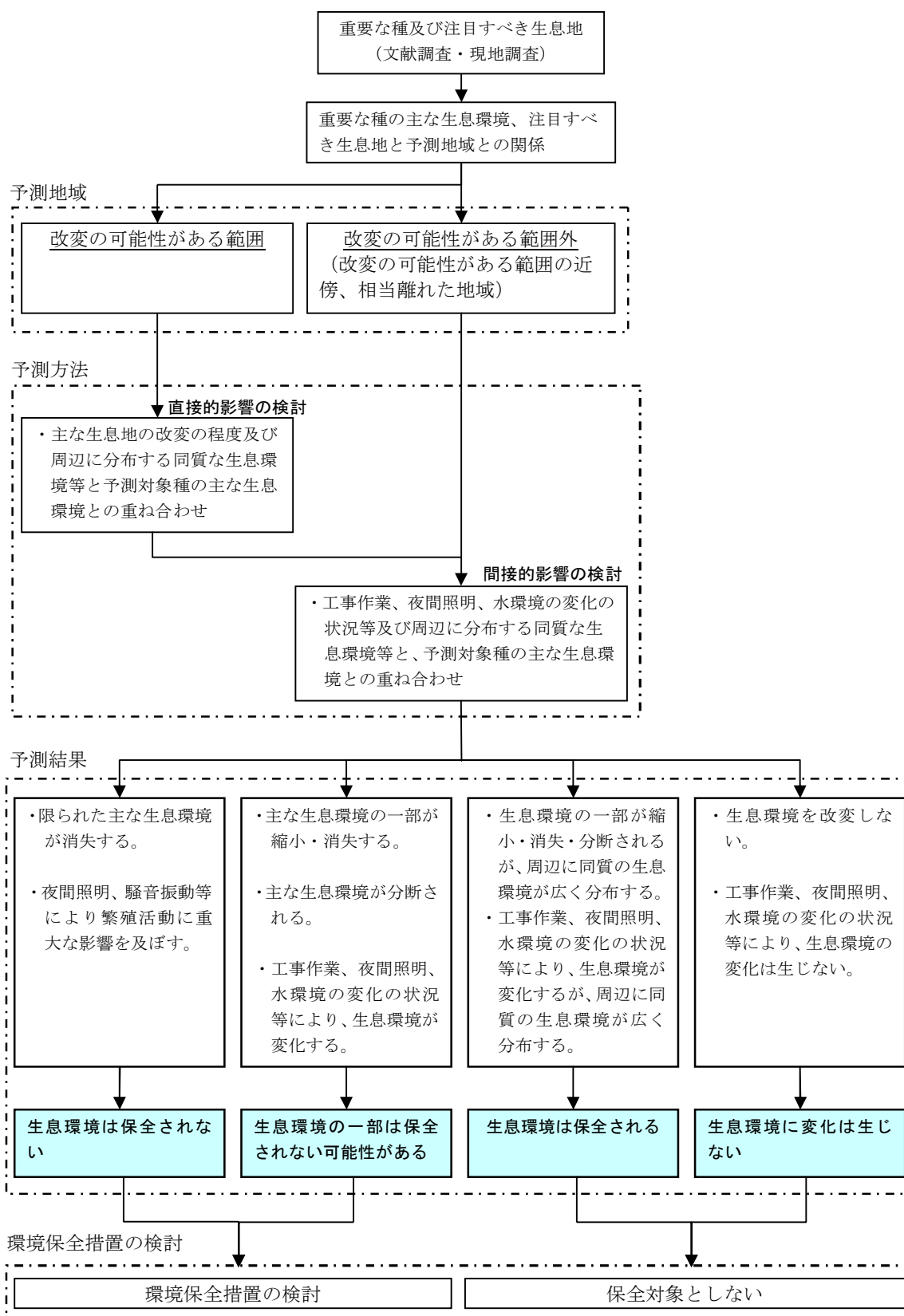


図 8-4-1-2 影響予測の手順

注 1. 「予測の手順」は予測の考え方を分かりやすく表現するために作成したものであり、予測は個別の種ごとに実施した。詳細は個別の種ごとの予測結果を参照のこと。

キ. 予測結果

現地調査により確認されている重要な種は、対象事業の実施によりその生息地及び生息環境が改変される程度について予測した。なお、文献調査により対象事業実施区域周辺に生息するとされている重要な種の内、現地調査で確認されなかった種は、対象事業の実施によりその種の生息環境が改変される程度を予測した。なお、魚類や底生動物等の移動範囲に関する知見は限られているが、個別の種ごとの一般生態、確認地点の生息環境を踏まえて、予測評価を実施した。

7) 現地調査で確認された重要な種に対する予測結果

現地調査で確認された重要な種の予測結果の概要を表 8-4-1-32 に示す。

表 8-4-1-32(1) 現地調査で確認された重要な種の予測結果の概要

| 分類 | 種名 | 確認種の 生息環境 | 確認位置 | | 生息環境への影響 |
|-----|------------|--------------|-------------------------|--------------------------|--------------------|
| | | | 改変の 可能性 がある 範囲 | 改変の 可能性 がある 範囲外 | |
| 哺乳類 | コウベモグラ | 草地 | | ○ | 生息環境は保全される。 |
| | ホンドタヌキ | 河川敷 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |
| | ホンシュウカヤネズミ | 草地 | | ○ | 生息環境は保全される。 |
| 鳥類 | カワアイサ | 水辺 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |
| | ケリ | 耕作地、水辺 | | ○ | 生息環境は保全される。 |
| | イカルチドリ | ため池、河川 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |
| | ミサゴ | 丘陵地 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |
| | ハチクマ | 丘陵地 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |
| | ツミ | 樹林 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |
| | ハイタカ | 丘陵地 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |
| | オオタカ | 丘陵地、樹林 | | ○ | 生息環境は保全されない可能性がある。 |
| | サシバ | 樹林 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |
| | ブッポウソウ | 樹林 | | ○ | 生息環境は保全される。 |
| | ハヤブサ | 市街地 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |
| | サンショウクイ | 樹林、耕作地、住宅地 | | ○ | 生息環境は保全される。 |
| | ミソサザイ | 樹林 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |
| | アカハラ | 河川 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |
| 爬虫類 | ニホンイシガメ | ため池、河川 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |
| | ニホンスッポン | 水辺、石垣、河川敷 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |
| 両生類 | ツチガエル | 谷部 | | ○ | 生息環境は保全される。 |
| | トノサマガエル | 水田、水路 | ○ | ○ | 生息環境は保全される。 |

表 8-4-1-32(2) 現地調査で確認された重要な種の予測結果の概要

| 分類 | 種名 | 確認種の 生息環境 | 確認位置 | | 生息環境への影響 |
|---------------|--------------|---------------|-------------------------|--------------------------|---------------|
| | | | 変更の 可能性 がある 範囲 | 変更の 可能性 がある 範囲外 | |
| 昆虫類 | ムカシヤンマ | 水路 | | ○ | 生息環境は保全される。 |
| | ハラビロトンボ | 湿地 | | ○ | 生息環境は保全される。 |
| | ハッチョウトンボ | 湿地 | | ○ | 生息環境は保全される。 |
| | ヒメアカネ | 湿地、水路 | | ○ | 生息環境は保全される。 |
| | オオアメンボ | 河川 | | ○ | 生息環境は保全される。 |
| | コオイムシ | 水路 | | ○ | 生息環境は保全される。 |
| | ヒメタイコウチ | 水路 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |
| | コガムシ | 河川、河川敷、 草地 | | ○ | 生息環境は保全される。 |
| | ヤマトアオドウガネ | 樹林、草地、河 川敷 | ○ | ○ | 生息環境は保全される。 |
| | ヒメボタル | 河川、外堀 | | ○ | 生息環境は保全される。 |
| | トゲアリ | 樹林 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |
| | ヤマトアシナガバチ | 草地 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |
| | ギフチョウ | 草地、樹林 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |
| 魚類 | カワヒガイ | ため池 | | ○ | 生息環境は保全される。 |
| | ドジョウ | 河川 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |
| | メダカ南日本集団 | 河川、水路 | ○ | ○ | 生息環境は保全される。 |
| 淡水産魚類 底生動物 | ハブタエヒラマキガイ | 水路 | ○ | ○ | 生息環境は保全される。 |
| | フネドブガイ | 水域 | | ○ | 生息環境は保全される。 |
| クモ類 真正 | シロオビトリノフンダマシ | 草地 | | ○ | 生息環境は保全される。 |
| | アカイロトリノフンダマシ | 草地 | | ○ | 生息環境に変化は生じない。 |

イ) 重要な動物種への影響

ア) 重要な哺乳類

現地調査で確認された重要な哺乳類の詳細な予測結果を表 8-4-1-33 に示す。

表 8-4-1-33(1) 重要な哺乳類の予測結果

| コウベモグラ (モグラ科) | | |
|---------------|---|--|
| 一般生態 | 本州の中部(静岡、長野、石川)以南、四国、九州等に分布する。 生息環境はアズマモグラと類似している。 繁殖期は通常は春の1回である。 昆虫類、ミミズ類をおもに捕食するが、ジムカデ類、ヒル類、カエル類、植物種子等も採食する。アズマモグラ同様の活動周期をもつものと考えられる。 | |
| 確認状況 | 名古屋市においては、春季調査、夏季調査及び冬季調査時に合計 13 地点 13 個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 草地 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍及び相当離れた地域であった。コウベモグラの生息が確認されている名古屋城の外堀において改変行為は行わないため、生息環境に変化は生じない。 ・したがって、生息環境は保全される。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍及び相当離れた地域であった。工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。また、相当離れた地域は、生息環境への影響は生じない。 ・したがって、生息環境に変化は生じない。 |

表 8-4-1-33(2) 重要な哺乳類の予測結果

| ホンドタヌキ (イヌ科) | | |
|--------------|--|---------------------------------------|
| 一般生態 | 北海道、本州、四国、九州等に分布する。 郊外の住宅地周辺から山地まで広く分布し、亜高山帯以上に生息することは少ない。 春に 3~5 頭を出産する。秋まで家族群で行動する。 鳥類、ノネズミ類等の小型動物、昆虫、果実類等を採食する。キツネやイタチ属に比べ、甲虫の幼虫、ミミズ等土壌動物の採食量が多い。親子あるいは血縁個体が近い距離に集まり生活、行動する。 | |
| 確認状況 | 名古屋市においては、春季調査、夏季調査及び冬季調査時に、合計 4 地点 4 個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 河川敷 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |
| | 鉄道施設の存在 | ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |

表 8-4-1-33(3) 重要な哺乳類の予測結果

| | |
|-------------------|---|
| ホンシュウカヤネズミ (ネズミ科) | |
| 一般生態 | <p>本州太平洋側では宮城県以南、日本海側では新潟県・石川県以南及び九州、四国等に分布する。低地から標高 1,200m あたり(長野県下伊那、神奈川県金時山)まで広く生息する。低地の草地、水田、畑、休耕地、沼沢地等のイネ科・カヤツリグサ科植物が密生し水気のあるところに多く生息する。繁殖期は大部分の地域では春と秋の年 2 山型であるが、まれに夏にも分布する。</p> <p>野外での食物調査はないが、飼育下のおもな食物はヒエ・アワ・アサ・ヒマワリの種子、サツマイモ、煮干、バッタ類等である。水面を泳ぐ。冬季には地表の堆積物や地下に坑道を掘り、畦道でも採集される。</p> |
| 確認状況 | <p>春日井市、名古屋市において、合計 21 地点で確認された。</p> <p>春日井市においては、繁殖期調査、夏季調査、秋季調査及び冬季調査時に 11 地点 11 個体が確認された。</p> <p>名古屋市においては、夏季調査、秋季調査及び冬季調査時に 10 地点 10 個体が確認された。</p> |
| 確認地点の生息環境 | 草地 |
| 予測結果 | <p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍及び相当離れた地域であった。そのため、工事作業により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周辺に草地など同質の生息環境が広く分布している。 ・したがって、生息環境は保全される。 |
| | <p>鉄道施設の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍及び相当離れた地域であった。工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。また、相当離れた地域は、生息環境への影響は生じない。 ・トンネルの工事および鉄道施設(トンネル)の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さい。 ・したがって、生息環境に変化は生じない。 |

b) 重要な鳥類

現地調査で確認された重要な鳥類の詳細な予測結果を表 8-4-1-34 に示す。

表 8-4-1-34(1) 重要な鳥類の予測結果

| | |
|-------------|--|
| カワアイサ (カモ科) | |
| 一般生態 | <p>ユーラシア大陸と北アメリカ大陸の中緯度地方に広く繁殖分布し、冬は両大陸南部に渡って過ごす。日本ではほぼ全土に冬鳥として渡来するが、北海道では少数が分布する。</p> <p>低地の河川、湖沼等の淡水域で見られる。繁殖地は、湖畔や大小の池が散在する湿地帯である。繁殖期は 4~6 月。巣は草むらの中か樹洞につくり、地上の場合には浅い窪みに草の葉等を敷いて皿形に作る。</p> <p>水面を泳ぎながら、頭を水中に入れて魚を探し、水中に潜って追いかけて魚を捕食する。</p> |
| 確認状況 | 春日井市においては、冬季調査時に、3 地点 3 個体が確認された。 |
| 確認地点の生息環境 | 水辺 |
| 予測結果 | <p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、カワアイサの生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境に変化は生じない。 |
| | <p>鉄道施設の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |

表 8-4-1-34(2) 重要な鳥類の予測結果

| ケリ (チドリ科) | | |
|-----------|--|---|
| 一般生態 | 中国北東部からウスリー南部、日本列島にごく限られて繁殖分布し、日本列島から中国南部、ミャンマーにかけて越冬する。日本では本州の中部以北で夏鳥として繁殖し、兵庫県あたりが南限である。冬は一部が越冬する。 水田、河原、荒れ地、芝原、牧草地、灌木が散在する草原等、平坦で開けた場所にすむ。冬や渡り期には、湖沼や河川の水辺、水田、干潟等に現れる。繁殖期は3~6月。巣は地上の砂地に窪みを掘り、枯れ草、蘚類、地衣類、木片等を敷く。 湿田、水田、砂泥地等で昆虫の成虫、幼虫、イネ科やタデ科等の草の種子を採食する。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、春季調査、繁殖期調査、夏季調査及び秋季調査時に、合計7地点11個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 耕作地、水辺 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍及び相当離れた地域であった。そのため、工事作業により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周辺に耕作地、水辺など同質の生息環境が広く分布している。 したがって、生息環境は保全される。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍及び相当離れた地域であった。工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。また、相当離れた地域は、生息環境への影響は生じない。 トンネルの工事および鉄道施設（トンネル）の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境に変化は生じない。 |

表 8-4-1-34(3) 重要な鳥類の予測結果

| イカルチドリ (チドリ科) | | |
|---------------|--|---|
| 一般生態 | 中国中北部から日本列島に限られて繁殖分布し、中国南部からミャンマーにかけて越冬する。日本では本州、四国、九州等で繁殖し、一部は留鳥である。 河原が発達した河川にすみ、特に大きい川の中流域の氾濫原や扇状地等の砂礫地に多い。繁殖期は3~7月。巣は、礫の間の地上に窪みをつくり、植物の破片を敷く。 湖沼や河川の水辺の地上や浅い水域で、甲虫や昆虫の成虫・幼虫を食する。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、春季調査、秋季調査及び冬季調査時に、5地点5個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | ため池、河川 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 トンネルの工事および鉄道施設（トンネル）の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さい。 |

表 8-4-1-34(4) 重要な鳥類の予測結果

| ミサゴ (ミサゴ科) | | |
|------------|---|--|
| 一般生態 | 北海道から沖縄にかけて分布する留鳥だが、冬に海が氷結する地域からは暖地へ移動する。 海岸、大きな川、湖等に生息する。 ボラやスズキ、イワシ等の魚類だけを捕食する。繁殖期は4~7月。岩棚等に流木や枯れ枝を積んで、かなり大きな皿形の巣を作る。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、猛禽類調査時に、3地点8例が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 丘陵地 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |

表 8-4-1-34(5) 重要な鳥類の予測結果

| | | |
|------------|--|---------------------------------------|
| ハチクマ (タカ科) | | |
| 一般生態 | 夏鳥として本州、佐渡島、北海道で繁殖し、東南アジアで越冬する。 1,500m以下の丘陵地や低山の山林に生息する。 ハチの幼虫や蛹を好んで食べ、ジハチ類を特に好む。繁殖期は5月下旬から9月。低山帯の大木の枝上に、他の猛禽類の古巣を利用して皿形の巣を作る。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、猛禽類調査時に、1地点15例が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | | |
| 丘陵地 | | |
| 予測結果 | 工事の実施 | ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |
| | 鉄道施設の存在 | ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |

表 8-4-1-34(6) 重要な鳥類の予測結果

| | | |
|-----------|--|---------------------------------------|
| ツミ (タカ科) | | |
| 一般生態 | 全国各地で繁殖し、暖地では留鳥として年中生息するが、積雪の多い寒地のものは暖地に移動して越冬する。 多くは平地から亜高山帯の林に生息する。近年では、市街地やその周辺の林での繁殖例が増えている。 主にスズメ、ツバメ、セキレイ類、エナガ、ムクドリ等の小型鳥類を捕食するほか、小型のネズミや昆虫も餌とする。産卵期は4~5月。針葉樹の枝に枯れ枝を積み重ねて皿形の巣を作る。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、猛禽類調査時に、1地点2例が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | | |
| 樹林 | | |
| 予測結果 | 工事の実施 | ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |
| | 鉄道施設の存在 | ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |

表 8-4-1-34(7) 重要な鳥類の予測結果

| | | |
|------------|---|---------------------------------------|
| ハイタカ (タカ科) | | |
| 一般生態 | 本州以北で分布する留鳥だが、少数は冬に暖地へ移動する。 平地から亜高山帯の林に生息する。秋と冬には海岸近くの農耕地やヨシ原まで出てくることある。 主にツグミぐらいまでの小鳥を狩るが、ネズミやリス、ヒミズ等を捕らえることもある。 産卵期は5月。カラマツの枝を主材に、皿形の巣を作る。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、猛禽類調査時に、3地点62例が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | | |
| 丘陵地 | | |
| 予測結果 | 工事の実施 | ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |
| | 鉄道施設の存在 | ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |

表 8-4-1-34(8) 重要な鳥類の予測結果

| | |
|------------|--|
| オオタカ (タカ科) | |
| 一般生態 | <p>四国の一部及び本州、北海道の広い範囲で分布するが、繁殖記録は東日本で多く、西日本では少ない。留鳥として年中生息するが、秋から冬になると高地や山地のものの一部は低地や暖地に移動する。</p> <p>平地から亜高山帯（秋・冬は低山帯）の林、丘陵地のアカマツ林やコナラとアカマツの混交林に生息し、しばし獲物を求めて農耕地、牧草地や水辺等の開けた場所にも飛来する。</p> <p>ツグミ等の小鳥や中型・大型の鳥、ネズミ、ウサギ等を餌にする。巣づくりは早いものでは2月上旬に始まり、産卵期は4月～6月。営巣木は、幹の上部が大きく又状に枝分かれした太いアカマツが好まれ、枝を積み重ねて厚みのある皿状の巣を作る。</p> |
| 確認状況 | <p>春日井市において、猛禽類調査時に、3地点100例以上が確認された。</p> <p>第一営巣期及び第二営巣期において、春日井市西尾町付近及び同坂下町一丁目・上野町付近で各1ペアが確認され、それぞれ繁殖の成功が確認された。また、営巣は2地点確認された。</p> |
| 確認地点の生息環境 | 丘陵地、樹林 |
| 予測結果 | <p>工事の実施</p> <p>・本種が確認された春日井市西尾町付近は営巣エリアの一部が改変の可能性がある範囲に含まれ、工事の実施により繁殖環境及び採餌環境の一部は消失・縮小する可能性がある。しかし、改変の可能性がある範囲は、オオタカが営巣に利用するような高木の樹林がない耕作地になっており、繁殖環境への直接的影響はない。また、その周辺には建物やゴルフ場等のすでに改変された区域が存在するほか、国道19号線が存在しており、すでに騒音が発生する環境にあることから、工事作業による騒音の影響は小さいと予測する。さらに、工事作業に伴う騒音・振動は、必要に応じて低騒音・低振動型の建設機械等を使用するほか必要に応じて防音扉を設置することにより、影響は小さいと予測する。加えて、確認された営巣エリアは、改変の可能性がある範囲から尾根をまたぐ場所にあるため、夜間照明等による影響は小さいと予測する。さらに、改変の可能性がある範囲において採餌行動の確認は少ないこと、当地のオオタカが鳥類を主食としていることから、狩場としての重要性は低いと考えられるため、採餌環境への影響は小さいと予測する。</p> <p>また春日井市坂下町一丁目・上野町付近は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。</p> |
| | <p>鉄道施設の存在</p> <p>・本種が確認された春日井市西尾町付近は改変の可能性がある範囲であるが、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。また、春日井市坂下町一丁目・上野町付近は相当離れた地域であるため、生息環境への影響は生じない。</p> <p>・したがって、生息環境に変化は生じない。</p> |

表 8-4-1-34(9) 重要な鳥類の予測結果

| | |
|-----------|---|
| サシバ (タカ科) | |
| 一般生態 | <p>夏鳥として3～4月ごろ渡来し、九州から青森県にかけて分布する。一部は西表島や宮古島で越冬する。</p> <p>低山から丘陵の森林に生息し、周辺の水田等の開けた環境で狩りをする。</p> <p>へびを好んで食するほか、ネズミ、モグラ、小鳥、カエルや、バッタ等の昆虫も捕食する。繁殖期は4～7月。森林や丘陵地の奥まった谷のマツやスギの枝上に、枯れ枝を積み重ねて皿形の巣を作る。</p> |
| 確認状況 | 春日井市において、猛禽類調査時に、1地点1例が確認された。 |
| 確認地点の生息環境 | 樹林 |
| 予測結果 | <p>工事の実施</p> <p>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。</p> |
| | <p>鉄道施設の存在</p> <p>・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。</p> |

表 8-4-1-34(10) 重要な鳥類の予測結果

| ブッポウソウ (ブッポウソウ科) | | |
|------------------|---|---|
| 一般生態 | ウスリーから中国東部、東南アジア、ニューギニア島等に分布し、冬は中国南部からオーストラリア大陸です。日本では夏鳥として本州、四国、九州で分布する。 常緑広葉樹林、落葉広葉樹林、スギ林、ヒノキ林、モミ林等の巨木の多い樹林にすむが、特に常緑広葉樹林に多い。繁殖期は5~7月。巣は大木につくられたキツツキの古巣をよく利用する。 高木の梢付近の枯れ枝に止まって周りを見張り、セミ類、ヤンマ類等の大型昆虫を空中で追い回して、くわえとる。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、猛禽類調査時に、1地点1例が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 樹林 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍であった。そのため、工事作業により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、確認されたのは樹林地の高圧電線に止まっていた1個体のみであったことから移動中の個体であったものと考えられる。また、周辺に樹林など同質の生息環境が広く分布している。 したがって、生息環境は保全される。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍であった。工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 したがって、生息環境に変化は生じない。 |

表 8-4-1-34(11) 重要な鳥類の予測結果

| ハヤブサ (ハヤブサ科) | | |
|--------------|--|--|
| 一般生態 | 北海道から九州北西部の島嶼に至るまで広く分布し、特に東北地方と北海道沿岸部に多い。 海岸や海岸に近い山の断崖や急斜面、広大な水面のある地域や広い草原、原野等に生息する。 獲物はほとんど中型の小鳥で、まれに地上でネズミやウサギを捕る。産卵期は3月下旬から4月上旬。海岸や海岸に近い山地の断崖の岩棚の窪みに営巣する。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、猛禽類調査時に、3地点27例が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 市街地 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |

表 8-4-1-34(12) 重要な鳥類の予測結果

| サンショウクイ (サンショウクイ科) | | |
|--------------------|---|---|
| 一般生態 | ウスリーから朝鮮半島、日本で繁殖し、冬は東南アジアや中国南部に渡って越冬する。日本には夏鳥として北海道を除き本州から西表島まで生息が確認されている。 主に標高1,000m以下の山地、丘陵、平地の高い木のある広葉樹林に多い。繁殖期は5~7月。ハンノキ、ハルニレ等の高木の上部の枝の上に浅い椀形の巣を作る。 樹冠部の葉や小枝が茂る下側で、ホバリングしながら虫や網にいるクモを捕食したり、木の枝先で昆虫やクモを捕食する。また空中を飛ぶ昆虫に向かってフライングキャッチして捕食する。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、春季調査、繁殖期調査及び夏季調査時に5地点11個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 樹林、耕作地、住宅地 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍であった。工事作業により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周辺に樹林、耕作地、住宅地など同質の生息環境が広く分布している。 したがって、生息環境は保全される。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍であった。工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。また、相当離れた地域は、生息環境への影響は生じない。 したがって、生息環境に変化は生じない。 |

表 8-4-1-34(13) 重要な鳥類の予測結果

| ミソサザイ (ミソサザイ科) | | |
|----------------|--|---------------------------------------|
| 一般生態 | ユーラシア大陸の中緯度地方に広く分布する。日本では、北海道、本州、四国、九州、伊豆諸島等で留鳥として分布するが、沖縄県にはいない。 低山帯から亜高山帯のよく茂った薄暗い樹林にすみ、特に、コケ類が多い岩石地や倒木の多い林、溪谷の谷底の急斜面、沢筋、小さい流れのあるところを好み、地表面に複雑な凸凹の多い場所が繁殖地として最も適切である。繁殖期は4月～7月。巣は倒木の下や、ひっくり返った根株の隙間等、オーバーハングの下側の暗い窪みに作る。 暗い樹林の林床で採食し、樹木の根元や岩に生えたコケの上をはねていきながら虫を探す。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、冬季調査時に、1地点1個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 樹林 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |
| | 鉄道施設の存在 | ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |

表 8-4-1-34(14) 重要な鳥類の予測結果

| アカハラ (ヒタキ科) | | |
|-------------|--|---------------------------------------|
| 一般生態 | 本州中部以北の日本、サハリン、南千島だけで繁殖し、冬は本州中部以西から中国南部等に渡る。 山地の明るい林、木が疎らに生えた環境を好み、カラマツ林や草原と林が接するところで分布する。冬は暖地の林に移動する。繁殖期は5月中旬～8月。林縁や道路わきの落葉広葉樹林、アカマツ、カラマツ、コメツガ、オオシラビソ等の亜高山針葉樹の枝先、又は幹に近い枝上に巣を作る。 地上の落ち葉をはねのけて昆虫やミミズをあさるが、木の実も好み、枝に残ったカキの実等をついばむ。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、秋季調査時に、1地点1個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 河川 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |
| | 鉄道施設の存在 | ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |

c) 重要な爬虫類

現地調査で確認された重要な爬虫類の予測結果を表 8-4-1-35 に示す。

表 8-4-1-35(1) 重要な爬虫類の予測結果

| ニホンイシガメ (イシガメ科) | | |
|-----------------|--|--|
| 一般生態 | 本州、四国、九州等に分布する。 山麓の池沼や水田、河川では上流から中流にかけて見られる。 繁殖は公園の池等では冬を除き、ほぼ通年観察できることもある。産卵は通常6～7月で、川であれば土手のような場所、池であれば付近の畑や畔等で行われることが多い。産卵場所が決まると後肢のみを使って、とっくり状の穴を掘っていく。 雑食性で魚やザリガニ等の甲殻類、水生昆虫、水草等を食する。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、夏季調査及び秋季調査時に、2地点4個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | ため池、河川 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、ニホンイシガメの生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境に変化は生じない。 |
| | 鉄道施設の存在 | ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |

表 8-4-1-35(2) 重要な爬虫類の予測結果

| ニホンスッポン (スッポン科) | | |
|-----------------|--|---|
| 一般生態 | 本州、四国、九州等に分布する。 主に河川の中流から下流にかけて、平地の池沼等の砂泥質の場所に生息する。 春先の4~6月に繁殖し、6~8月に産卵する。 肉食性で魚や貝類、甲殻類、水生昆虫等さまざまな小動物を食する。日光浴も行い、川等では中州に上陸している姿を見かける。古くから養殖されてきたため人為的な移殖が多く、また海外からの移入も少なくないために交雑が進んでいる可能性がある。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、春季調査、夏季調査及び秋季調査時に、4地点4個体が確認された。 名古屋市において、春季調査、夏季調査及び秋季調査時に、4地点4個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 水辺、石垣、河川敷 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、ニホンスッポンの生息環境への影響は及ばない。 したがって、生息環境は保全される。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |

d) 重要な両生類

現地調査で確認された重要な両生類の詳細な予測結果を表 8-4-1-36 に示す。

表 8-4-1-36(1) 重要な両生類の予測結果

| ツチガエル (アカガエル科) | | |
|----------------|--|---|
| 一般生態 | 北海道西部、本州、四国、九州等に分布する。 海水がかかる水溜まり、水田や湿地、河川、山間部の溪流等の水辺周辺に生息する。 繁殖期は5~9月で、雌は水草や水中の枝等に小さな卵塊をいくつも産み付ける。海岸近くでは海水が流入するような水溜まりで産卵することもある。幼生の一部はその年の秋までに変態するが、越冬し翌年変態する個体もいる。成体は泥の中で越冬する。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、夏季調査時に、3地点8個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 谷部 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため、生息環境の変化は生じない。 トンネル区間において、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は浅層の地下水により涵養されていることから、生息環境への影響は及ばない。 したがって、生息環境は保全される。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域及びその周囲の内、改変の可能性がある範囲に湿地は存在せず、ツチガエルは確認されていないため、生息環境の変化は生じない。 山岳トンネル区間においては、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は浅層の地下水により涵養されることから、生息環境への影響は及ばない。 トンネルの工事および鉄道施設(トンネル)の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性のあるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境に変化は生じない。 |

表 8-4-1-36(2) 重要な両生類の予測結果

| トノサマガエル (アカガエル科) | |
|------------------|---|
| 一般生態 | <p>本州(関東平野、仙台平野を除く)、四国、九州、北海道の一部(人為移入)に分布する。池や湿地、沼、河川、水田で見られる。</p> <p>通常繁殖期は4~6月である。同所に分布するダルマガエルやトウキョウダルマガエルとの分布境界部では、それぞれ本種との雑種が見つかっている。</p> <p>なお、本種の行動圏は十分に知られていないが、戸金ら(2010)によると、近縁のトウキョウダルマガエルでは平均85.5m、最大175.8mの移動距離が報告されている。</p> |
| 確認状況 | 春日井市において、春季調査、夏季調査及び秋季調査時に、42地点100個体以上が確認された。 |
| 確認地点の生息環境 | 水田、水路 |
| 予測結果 | <p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲及び改変の可能性がある範囲の近傍であるため、工事作業により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周辺に水田、水路など同質の生息環境が広く分布している。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、トノサマガエルの生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全される。 |
| | <p>鉄道施設の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲及び改変の可能性がある範囲の近傍であるが、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。また、相当離れた地域は、生息環境への影響は生じない。 ・トンネルの工事および鉄道施設(トンネル)の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さい。 ・したがって、生息環境に変化は生じない。 |

e) 重要な昆虫類

現地調査で確認された重要な昆虫類の詳細な予測結果を表 8-4-1-37 に示す。

表 8-4-1-37(1) 重要な昆虫類の予測結果

| ムカシヤンマ (ムカシヤンマ科) | |
|------------------|---|
| 一般生態 | <p>本州及び九州に分布する。</p> <p>未成熟個体は比較的遠くまで飛んでいくらしく、しばしば幼虫が生息すると考えられる水辺から離れた林縁の空き地で見ることもある。</p> <p>飛んでいるより、とまっていることの方が多い。</p> |
| 確認状況 | 春日井市において、春季調査時に、1地点1個体が確認された。 |
| 確認地点の生息環境 | 水路 |
| 予測結果 | <p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山岳トンネル区間において、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されていることから、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全される。 |
| | <p>鉄道施設の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山岳トンネル区間において、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されていることから、生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境に変化は生じない。 |

表 8-4-1-37(2) 重要な昆虫類の予測結果

| ハラビロトンボ (トンボ科) | | |
|----------------|---|---|
| 一般生態 | 北海道の南部から九州・四国まで分布する。 平地や丘陵地の挺水植物が繁茂する沼や沢地や湿地に生息しており、4月中旬頃から9月末頃まで見られる。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、春季調査及び夏季調査時に、5地点5個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 山岳トンネル区間において、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されていることから、生息環境への影響は及ばない。 したがって、生息環境は保全される。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 山岳トンネル区間において、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されていることから、生息環境への影響は及ばない。 トンネルの工事および鉄道施設（トンネル）の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境に変化は生じない。 |

表 8-4-1-37(3) 重要な昆虫類の予測結果

| ハッチョウトンボ (トンボ科) | | |
|-----------------|---|---|
| 一般生態 | 本州・四国・九州に分布するが、離島には産しない。 羽化後の未熟個体もほとんど羽化水域を離れず、水辺に隣接する草むらや灌木の間等に移って生息するため、出現初期にはさまざまな成熟過程の個体がいりまじって見られる。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、春季調査時に、1地点2個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 山岳トンネル区間において、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されていることから、生息環境への影響は及ばない。 したがって、生息環境は保全される。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 山岳トンネル区間において、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されていることから、生息環境への影響は及ばない。 トンネルの工事および鉄道施設（トンネル）の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境に変化は生じない。 |

表 8-4-1-37(4) 重要な昆虫類の予測結果

| ヒメアカネ (トンボ科) | | |
|--------------|--|---|
| 一般生態 | 北海道から九州にかけて分布する。 平地から低山地の丈の低い植物が茂る滲出水のある湿地や休耕田等に生息する。 成虫・幼虫ともに昆虫等を食する。 成虫は5月下旬～12月中旬まで見られる。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、夏季調査及び秋季調査時に、3地点3個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 湿地、水路 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 山岳トンネル区間において、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されていることから、生息環境への影響は及ばない。 したがって、生息環境は保全される。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 山岳トンネル区間において、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されていることから、生息環境への影響は及ばない。 トンネルの工事および鉄道施設（トンネル）の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境に変化は生じない。 |

表 8-4-1-37(5) 重要な昆虫類の予測結果

| オオアメンボ (アメンボ科) | | |
|----------------|---|---|
| 一般生態 | 本州、四国、九州に分布する。 沼地や小流に生息する。 なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、中尾 (2007)によると、同じアメンボ科のエサキアメンボの飛翔距離は一般に400～500mとされている。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、夏季調査時に、8地点8個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 河川 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境に変化は生じない。 工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、オオアメンボの生息環境への影響は及ばない。 したがって、生息環境は保全される。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 トンネルの工事および鉄道施設（トンネル）の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さい。 |

表 8-4-1-37(6) 重要な昆虫類の予測結果

| コオイムシ (コオイムシ科) | | |
|----------------|--|---|
| 一般生態 | 北海道から九州に分布する。 水田や池沼等比較的浅い開放水面に棲む。 小型の昆虫類やその他小動物を食する。 初夏の頃、雌は雄の背中に卵を産みつける。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、秋季調査時に、1地点1個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 水路 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境に変化は生じない。 工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、コオイムシの生息環境への影響は及ばない。 したがって、生息環境は保全される。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 トンネルの工事および鉄道施設（トンネル）の存在により、破碎帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さい。 |

表 8-4-1-37(7) 重要な昆虫類の予測結果

| ヒメタイコウチ (タイコウチ科) | | |
|------------------|---|---|
| 一般生態 | 本州に分布する。 湧水付近のコケの間や導水溝水辺の落葉間に生息する。 なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、愛知県 (2009)によると、飛翔しないため移動性が乏しい、とされている。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、夏季調査及び秋季調査時に、3地点6個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 水路 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍であった。このため、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、改変の可能性がある範囲にヒメタイコウチは確認されておらず、また、生息環境となる湿地や池畔は存在していない。 工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、ヒメタイコウチの生息環境への影響は及ばない。 山岳トンネル区間において、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されていることから、生息環境への影響は及ばない。 したがって、生息環境に変化は生じない。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍であった。工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。また、相当離れた地域は、生息環境への影響は生じない。 山岳トンネル区間において、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、「8-2-2 地下水の水質及び水位」に示すとおり湿地を涵養する湧水は表層の地下水により涵養されていることから、生息環境への影響は及ばない。 トンネルの工事および鉄道施設 (トンネル) の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さい。 したがって、生息環境に変化は生じない。 |

表 8-4-1-37(8) 重要な昆虫類の予測結果

| コガムシ (ガムシ科) | | |
|-------------|--|---|
| 一般生態 | 北海道から九州まで分布する。 植生の豊富な水田や湿地、池沼に見られる。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、春季調査及び夏季調査時に、3地点3個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 河川、河川敷、草地 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境に変化は生じない。 工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、コガムシの生息環境への影響は及ばない。 したがって、生息環境は保全される。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境に変化は生じない。 トンネルの工事および鉄道施設 (トンネル) の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さい。 |

表 8-4-1-37(9) 重要な昆虫類の予測結果

| ヤマトアオドウガネ (コガネムシ科) | | |
|--------------------|---|---|
| 一般生態 | 本州、四国、九州に分布する。 平地から低山地に生息するが海岸よりの地域に多く見られる。 成虫は6~9月に見られる。 なお、本種の移動距離は十分に知られていないが、前河(2005)によると、同じコガネムシ科のアオカナブンの移動距離は150m~450mである。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、夏季調査時に3地点3個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 樹林、草地、河川敷 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲及び相当離れた地域であった。そのため、工事作業により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周辺に樹林、草地、河川敷など同質の生息環境が広く分布している。 したがって、生息環境は保全される。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲及び相当離れた地域であるが、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。また、相当離れた地域は、生息環境への影響は生じない。 したがって、生息環境に変化は生じない。 |

表 8-4-1-37(10) 重要な昆虫類の予測結果

| ヒメボタル (ホタル科) | | |
|--------------|--|---|
| 一般生態 | ヒメボタルとしては、本州、四国、九州に分布するが、低地型に限った分布は、必ずしも明らかでない。 スギヒノキの人工林の暗い林床部に生息する。 幼虫は陸産の巻貝類を餌としていると考えられている。 成虫は6~7月に見られる。 | |
| 確認状況 | 名古屋市内において、春季調査時に、19地点100個体以上が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 河川、外堀 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍であった。そのため、工事作業により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周辺に河川、堀など同質の生息環境が広く分布している。なお、ヒメボタルの生息が確認されている名古屋城の外堀周辺において改変行為は行わないため、生息環境に変化は生じない。 したがって、生息環境は保全される。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍であった。工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。また、相当離れた地域は、生息環境への影響は生じない。 したがって、生息環境は保全される。 |

表 8-4-1-37(11) 重要な昆虫類の予測結果

| トゲアリ (アリ科) | | |
|------------|---|--|
| 一般生態 | 本州、四国、九州に分布する。 クロオオアリ等に一時的社会寄生する。立木の根際のうろに巣を作る。 なお、久保田(1988)によると、アリ科のクロヤマアリの移動距離は、巣から100m以上である。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、夏季調査時に、2地点2個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 樹林 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |

表 8-4-1-37(12) 重要な昆虫類の予測結果

| ヤマトアシナガバチ (スズメバチ科) | | |
|--------------------|---|---------------------------------------|
| 一般生態 | 本州、四国、九州に分布する。 家屋の軒下、草木の枝、石垣等に営巣する。 5~10月頃まで見られる。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、春季調査及び夏季調査時に、3地点3個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 草地 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境に変化は生じない。 |
| | 鉄道施設の存在 | ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |

表 8-4-1-37(13) 重要な昆虫類の予測結果

| ギフチョウ (アゲハチョウ科) | | |
|-----------------|---|---------------------------------------|
| 一般生態 | 本州に生息する。 低山地の雑木林や高層湿原の周辺等に生息する。 幼虫の食草はおもにウマノスズクサ科のカンアオイ属。 成虫は3月下旬~5月下旬に出現する。 なお、HIRANOら(2006)によると、直線距離で互いに約125~460m離れた4つのピークの間で、雄個体において、累計52回のピーク間移動が計27個体で確認された。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、早春季調査時に、5地点28個体が確認された。 卵は、食草であるスズカカンアオイで確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 草地、樹林 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |
| | 鉄道施設の存在 | ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |

f) 重要な魚類

現地調査で確認された重要な魚類の詳細な予測結果を表 8-4-1-38 に示す。

表 8-4-1-38(1) 重要な魚類の予測結果

| カワヒガイ (コイ科) | | |
|-------------|---|--|
| 一般生態 | 濃尾平野、琵琶湖の流入河川、京都盆地、山口県を除く山陽地方、九州北西部、長崎県壱岐に分布する。 河川とそれに連なる水路の流れの緩やかな砂底、又は砂礫底に生息する。 産卵期は5~7月で、インガイやササノハガイ、タガイ等淡水二枚貝の外套腔へ産卵する。 水生昆虫や小型巻貝、付着藻類等を食する。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、秋季調査時に、1地点2個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | ため池 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | ・本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍であった。そのため、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、確認されたため池では改変行為は行われぬ。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、カワヒガイの生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全される。 |
| | 鉄道施設の存在 | ・本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍であった。工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 |

表 8-4-1-38(2) 重要な魚類の予測結果

| | |
|--------------|--|
| ドジョウ (ドジョウ科) | |
| 一般生態 | <p>ほぼ日本全国に分布。 水田や湿地と、周辺の細流にすむ。平地部を中心に生息するが、圃場整備されていない水田が近くにあれば、かなり上流域にもいる。 西日本での産卵期は6~7月。水田周辺では、しろかきと同時に周囲の用水路から水田に遡上する。遡上後、水田で何日かを過ごしたあと夜間に産卵する。 雑食性。</p> |
| 確認状況 | 春日井市において、春季調査、夏季調査、秋季調査及び冬季調査時に、8地点 46個体が確認された。 |
| 確認地点の生息環境 | 河川 |
| 予測結果 | <p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、ドジョウの生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境に変化は生じない。 |
| | <p>鉄道施設の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 ・トンネルの工事および鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さい。 |

表 8-4-1-38(3) 重要な魚類の予測結果

| | |
|-----------------|---|
| メダカ南日本集団 (メダカ科) | |
| 一般生態 | <p>岩手県南部以南の本州太平洋側、四国、九州及び対馬や屋久島等周辺の島嶼、京都府から山口県までの日本海側、奄美諸島、沖縄諸島に分布する。 平野部の河川や湖沼、水田地帯の用水路等に生息し、止水や緩流域を好む。 産卵期は主に春から夏で、水草等に産卵する。 食性はプランクトンのほか、小さな落下昆虫等を食する雑食性である。 近年、本種とメダカ北日本集団 (<i>Oryzias sakaizumii</i>) の2種に分けられ、分布が異なるほか、体側鱗の黒い縁取りの有無等外部形態によっても区別される。 なお、佐原 (私信) によると、水路のみで生息する本種の移動距離は条件がよければ 1500m程度である。</p> |
| 確認状況 | 春日井市において、春季調査、夏季調査、秋季調査及び冬季調査時に、12地点 100個体以上が確認された。 |
| 確認地点の生息環境 | 河川、水路 |
| 予測結果 | <p>工事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲、改変の可能性がある範囲の近傍及び相当離れた地域であった。そのため、工事作業により生息環境の一部が消失、同種が確認された水田横の水路は縮小する可能性があるが、周辺に河川、水路など同質の生息環境が広く分布している。 ・工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、メダカの生息環境への影響は及ばない。 ・したがって、生息環境は保全される。 |
| | <p>鉄道施設の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲、改変の可能性がある範囲の近傍及び相当離れた地域であるが、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。また、相当離れた地域は、生息環境への影響は生じない。 ・トンネルの工事および鉄道施設（トンネル）の存在により、破砕帯等の周辺にある河川の一部において流量への影響の可能性があるものの、周辺に同様の環境が広く残されることから、本種の生息環境への影響は小さい。 ・したがって、生息環境は保全される。 |

g) 重要な底生動物（淡水産貝類含む）

現地調査で確認された重要な底生動物の詳細な予測結果を表 8-4-1-39 に示す。

なお、底生動物として確認されたオオアメンボ、コオイムシ、コガムシの3種は、昆虫類に属するため、昆虫類の項で予測評価を行った。

表 8-4-1-39(1) 重要な底生動物の予測結果

| ハブタエヒラマキガイ（ヒラマキガイ科） | | |
|---------------------|---|---|
| 一般生態 | 情報なし。類似種について湧水のある湿地や洗い場等で確認されやすいとの情報あり。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、冬季調査時に、2地点6個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 水路 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲及び改変の可能性がある範囲の近傍であった。そのため、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、同種が確認された水田横の水路は同質の生息環境として広く分布している。 工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、ハブタエヒラマキガイの生息環境への影響は及ばない。 したがって、生息環境は保全される。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲及び改変の可能性がある範囲の近傍であるが、工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。また、相当離れた地域では確認されていないので、生息環境への影響は生じない。 したがって、生息環境は保全される。 |

表 8-4-1-39(2) 重要な底生動物の予測結果

| フネドブガイ（イシガイ科） | | |
|---------------|---|--|
| 一般生態 | 中国、朝鮮半島、シベリア、日本（北海道、本州、四国）、九州での確実な記録はないが、分布しているものと思われる。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、冬季調査時に、1地点1個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 水域 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍であった。そのため、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周辺に水域など同質の生息環境が広く分布している。 工事の実施に伴う排水は、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置し処理することにより、フネドブガイの生息環境への影響は及ばない。 したがって、生息環境は保全される。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍であった。工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。 |

h) 重要な真正クモ類

現地調査で確認された重要な真正クモ類の詳細な予測結果を表 8-4-1-40 に示す。

表 8-4-1-40(1) 重要な真正クモ類の予測結果

| シロオビトリノフンダマシ (コガネグモ科) | | |
|-----------------------|---|---|
| 一般生態 | 本州、四国、九州等に分布する。里山から山地にかけてのススキ草地や樹林地、林道等にも生息する。 樹間や草間に同心円状円網を張る。フンダマシ類の横糸は、粘性が極めて強いため獲物がかかった場合、端の一方が切れ、ぶら下がった糸をたぐり獲物を捕らえる。 体長は雌 5~8mm、雄 1~2mm。雌の背甲は褐色、腹部上面は色彩変異が多い。横向きの白帯が入るシロオビ型、全面が無地の赤褐色や黒色のクロ型等がある。雄の背甲は褐色で、細かな凹点がある。腹部上面は褐色で、後方はやや明色。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、夏季調査時に、3 地点 3 個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 草地 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍であった。そのため、工事作業により生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、周辺に草地など同質の生息環境が広く分布している。 したがって、生息環境は保全される。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は改変の可能性がある範囲の近傍であった。工事の実施による生息環境の改変以外に新たな改変はないことから、鉄道施設の存在による生息環境の変化は生じない。また、相当離れた地域は、生息環境への影響は生じない。 したがって、生息環境は保全される。 |

表 8-4-1-40(2) 重要な真正クモ類の予測結果

| アカイロトリノフンダマシ (コガネグモ科) | | |
|-----------------------|--|--|
| 一般生態 | 本州、四国、九州等に分布する。里山から山地にかけてのススキ草地や樹林地、林道等にも生息する。 樹間や草間に同心円状円網を張る。フンダマシ類の横糸は、粘性が極めて強いため獲物がかかった場合、端の一方が切れ、ぶら下がった糸をたぐり獲物を捕らえる。 体長は雌 4.5~7mm、雄 1.5~2mm。雌の背甲は褐色で、腹部上面は色彩変異が多い。地色が赤褐色で多数の白斑と 1 対の黒斑があるアカイロ型、そのアカイロ型の赤色部が黒褐色化したり、地色が黒色で腹部後方に赤みを帯びるソメワケ型等がある。雄の背甲は暗褐色で、腹部上面は赤褐色。 | |
| 確認状況 | 春日井市において、夏季調査時に、3 地点 3 個体が確認された。 | |
| 確認地点の生息環境 | 草地 | |
| 予測結果 | 工事の実施 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |
| | 鉄道施設の存在 | <ul style="list-style-type: none"> 本種が確認された地点は相当離れた地域であるため生息環境の変化は生じない。 |

ウ) 文献調査でのみ確認された重要な種に対する予測結果

文献調査により事業実施区域周辺に生息する可能性があると考えられる重要な種の内、現地調査では確認されなかった重要な種は、哺乳類 11 種、鳥類 34 種、爬虫類 6 種、両生類 7 種、昆虫類 108 種、魚類 28 種、底生動物 3 種、真正クモ類 18 種、陸産貝類 1 種であった。

a) 哺乳類

予測対象種は、ホンシュウジネズミ、ホンシュウヒミズ、ニホンキクガシラコウモリ、ホンドキツネ、ホンドテン、ホンドイタチ、ニホンアナグマ、ムササビ、ハタネズミ、ホンドアカネズミ、ホンシュウノウサギの 11 種である。

これらのうち、ホンシュウジネズミ、ニホンキクガシラコウモリは、丘陵地・平地の樹林、草地、湿地及び河川敷が主な生息環境である。ホンシュウヒミズ、ホンドテン、ニホンアナグマ、ムササビは、丘陵地・平地の樹林が主な生息環境である。ホンドキツネ、ホンドイタチ、ハタネズミ、ホンドアカネズミ、ホンシュウノウサギは、丘陵地・平地の樹林及び草地が主な生息環境である。このため、工事の実施又は鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の存在により、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから、生息環境は保全されるものと予測される。

b) 鳥類

予測対象種は、ウズラ、オシドリ、ヨシゴイ、ミゾゴイ、チュウサギ、クイナ、ヒクイナ、カッコウ、ヨタカ、ヤマシギ、オオジシギ、オグロシギ、タカブシギ、ハマシギ、タマシギ、コアジサシ、クマタカ、オオコノハズク、コノハズク、フクロウ、アオバズク、アカショウビン、ヤマセミ、サンコウチョウ、アカモズ、コシアカツバメ、カワガラス、クロツグミ、コマドリ、コルリ、コサメビタキ、コイカル、ホオアカ、ノジコの 34 種である。

これらのうち、ウズラは、丘陵地・平地の草地及び河川敷が主な生息環境である。オシドリは、丘陵地・平地の樹林及び水域が主な生息環境である。ヨシゴイ、チュウサギ、クイナは、丘陵地・平地の湿地及び水域が主な生息環境である。ミゾゴイ、ヒクイナ、ヨタカ、クマタカ、オオコノハズク、コノハズク、フクロウ、アオバズク、アカショウビン、ヤマセミ、サンコウチョウ、クロツグミ、コマドリ、コルリ、コサメビタキ、コイカル、ノジコは、丘陵地・平地の樹林が主な生息環境である。カッコウ、ヤマシギ、アカモズは、丘陵地・平地の樹林及び草地が主な生息環境である。オオジシギは、丘陵地・平地の草地及び湿地が主な生息環境である。オグロシギ、タカブシギ、タマシギは、丘陵地・平地の湿地が主な生息環境である。ハマシギ、コアジサシ、カワガラスは、丘陵地・平地の水域が主な生息環境である。コシアカツバメは、丘陵地・平地の住宅地が主な生息環境である。ホオアカは、丘陵地・平地の草地が主な生息環境である。このため、工事の実施又は鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の存在により、生息環境の一部

が消失、縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、生息環境は保全されると予測される。

c) 爬虫類

予測対象種は、クサガメ、タカチホヘビ、シマヘビ、ヒバカリ、シロマダラ、ヤマカガシの6種である。

これらのうち、クサガメは、丘陵地・平地の湿地及び水域が主な生息環境である。タカチホヘビは、丘陵地・平地の樹林が主な生息環境である。シマヘビ、シロマダラは、丘陵地・平地の樹林、草地及び湿地が主な生息環境である。ヒバカリ、ヤマカガシは、丘陵地・平地の草地及び湿地が主な生息環境である。このため、工事の実施又は鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の存在により、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、生息環境は保全されると予測される。

d) 両生類

予測対象種は、カスミサンショウウオ、コガタブチサンショウウオ、アカハライモリ、ナゴヤダルマガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、カジカガエルの7種である。

これらのうち、カスミサンショウウオは、丘陵地・平地の樹林及び湿地が主な生息環境である。コガタブチサンショウウオは、丘陵地・平地の水域が主な生息環境である。アカハライモリ、ナゴヤダルマガエルは、丘陵地・平地の湿地及び水域が主な生息環境である。ニホンアカガエルは、丘陵地・平地の湿地が主な生息環境である。ヤマアカガエル、カジカガエルは、丘陵地・平地の樹林及び水域が主な生息環境である。このため、工事の実施又は鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の存在により、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。また、東海丘陵の小湿地群は、土地の改変はないため、生息環境に大きな変化は生じない。山岳トンネル区間において、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、トンネルは深層に位置し、湿地の湧水は浅層の地下水により涵養されることから、生息環境に変化は生じない。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、生息環境は保全されると予測される。

e) 昆虫類

予測対象種は、ムスジイトトンボ、オオイトトンボ、ベニイトトンボ、ヒノマイイトトンボ、モートンイトトンボ、グンバイトンボ、コバネアオイトトンボ、キイロサナエ、ホン

サナエ、ナゴヤサナエ、メガネサナエ、タベサナエ、フタスジサナエ、オグマサナエ、ネアカヨシヤンマ、アオヤンマ、マルタンヤンマ、コシボソヤンマ、サラサヤンマ、トラフトンボ、キイロヤマトンボ、ハネビロエゾトンボ、エゾトンボ、ベッコウトンボ、キトンボ、マダラナニワトンボ、オオキトンボ、オオゴキブリ、ヒメカマキリ、コロギス、アリツカコオロギ、セグロイナゴ、ハネナガイナゴ、ヤマトフキバツタ、トゲナナフシ、ハウチワウンカ、アカジマアシブトウンカ、ハルゼミ、チッチゼミ、スナヨコバイ、イトアメンボ、エサキアメンボ、タガメ、タイコウチ、ミズカマキリ、ホッケミズムシ、コバンムシ、シロヘリツチカメムシ、カワラゴミムシ、ハンミョウ、ホソハンミョウ、カワラハンミョウ、セアカオサムシ、キベリマルクビゴミムシ、フタモンマルクビゴミムシ、コハンミョウモドキ、ヒトツメアオゴミムシ、クビナガキベリアオゴミムシ、クビボソコガシラミズムシ、ヒメコガシラミズムシ、ムツボシツヤコツブゲンゴロウ、コクロマメゲンゴロウ、トダセスジゲンゴロウ、ゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、オオミズスマシ、コオナガミズスマシ、ミズスマシ、ヒメシジミガムシ、ガムシ、スジヒラタガムシ、ヤマトエンマムシ、ヤマトモンシデムシ、マダラクワガタ、オオクワガタ、ヒラタクワガタ、ミツノエンマコガネ、アカマダラコガネ、コカブトムシ、クロマダラタマムシ、ゲンジボタル、ヘイケボタル、ヤマトヒメメダカカッコウムシ、マメハンミョウ、ケブカマルクビカミキリ、ヨツボシカミキリ、オオシロカミキリ、キオビクビボソハムシ、モンズメバチ、ミヤマセセリ、ミヤマチャバネセセリ、ジャコウアゲハ、ツマグロキチョウ、スジボソヤマキチョウ、ウラゴマダラシジミ、ウラクロシジミ、ウラギンスジヒョウモン、ウラギンヒョウモン、ヒオドシチョウ、オオムラサキ、ヒメヒカゲ、ウラナミジャノメ、ウスベニキョトウ、アトジロキリガ、トビイロアカガネヨトウ、コシロシタバ、トウカイツマキリアツバの108種である。

これらのうち、ムスジイトトンボ、オオイトトンボ、ベニイトトンボ、ヒヌマイトトンボ、モートンイトトンボ、グンバイトトンボ、コバナアオイトトンボ、キイロサナエ、ホンサナエ、ナゴヤサナエ、メガネサナエ、タベサナエ、フタスジサナエ、オグマサナエ、ネアカヨシヤンマ、アオヤンマ、マルタンヤンマ、コシボソヤンマ、サラサヤンマ、トラフトンボ、キイロヤマトンボ、ハネビロエゾトンボ、エゾトンボ、ベッコウトンボ、キトンボ、マダラナニワトンボ、オオキトンボ、タガメ、タイコウチ、クビボソコガシラミズムシ、オオミズスマシ、スジヒラタガムシ、ヘイケボタルは、丘陵地・平地の湿地及び水域が主な生息環境である。オオゴキブリ、ヒメカマキリ、コロギス、アリツカコオロギ、ヤマトフキバツタ、トゲナナフシ、ハルゼミ、チッチゼミ、ヒトツメアオゴミムシ、ヤマトモンシデムシ、マダラクワガタ、オオクワガタ、ヒラタクワガタ、アカマダラコガネ、コカブトムシ、クロマダラタマムシ、ケブカマルクビカミキリ、ヨツボシカミキリ、オオシロカミキリ、ミヤマセセリ、ジャコウアゲハ、スジボソヤマキチョウ、ウラゴマダラシジミ、ウラクロシジミ、ヒオドシチョウ、オオムラサキ、アトジロキリガ、トビイロアカガネヨトウ、コシロシタバ、トウカイツマキリアツバは、丘陵地・平地の樹林が主な生息環境である。セグロイナゴ、ハネナガイナゴ、ハウチワウンカ、アカジマアシブトウンカ、イトアメンボ、クビナガキベリアオゴミムシ、トダセスジゲンゴロウ、ヤマトヒメメダカ

カッコウムシ、ヒメヒカゲ、ウラナミジャノメ、ウスベニキョトウは、丘陵地・平地の湿地が主な生息環境である。スナヨコバイは、丘陵地・平地の砂地が主な生息環境である。エサキアメンボ、ミズカマキリ、ホッケミズムシ、コバンムシ、ヒメコガシラミズムシ、ムツボシツヤコツブゲンゴロウ、コクロマメゲンゴロウ、ゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、コオナガミズスマシ、ミズスマシ、ヒメシジミガムシ、ガムシ、ゲンジボタルは、丘陵地・平地の水域が主な生息環境である。シロヘリツチカメムシ、コハンミョウモドキ、ヤマトエンマムシ、ミツノエンマコガネ、マメハンミョウ、キオビクビボソハムシ、ミヤマチャバネセセリ、ツماغロキチョウ、ウラギンスジヒョウモン、ウラギンヒョウモンは、丘陵地・平地の草地が主な生息環境である。カワラゴミムシ、ハンミョウ、カワラハンミョウ、フタモンマルクビゴミムシは、丘陵地・平地の河川敷が主な生息環境である。ホソハンミョウは、丘陵地・平地の草地及び耕作地が主な生息環境である。セアカオサムシ、キベリマルクビゴミムシは、丘陵地・平地の草地及び河川敷が主な生息環境である。モンスズメバチは、丘陵地・平地の住宅地及び樹洞が主な生息環境である。このため、工事の実施又は鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の存在により、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。また、東海丘陵の小湿地群は、土地の改変はないため、生息環境に大きな変化は生じない。山岳トンネル区間において、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、湿地の湧水は浅層の地下水により涵養されることから、生息環境に変化は生じない。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、生息環境は保全されると予測される。

f) 魚類

予測対象種は、スナヤツメ、ニホンウナギ、ゲンゴロウブナ、ギンブナ、ヤリタナゴ、アブラボテ、イチモンジタナゴ、タナゴ、イタセンバラ、ゼニタナゴ、カワバタモロコ、ハス、ウシモツゴ、ゼゼラ、コガタスジシマドジョウ、シマドジョウ、ホトケドジョウ、ナマズ、アカザ、アマゴ、アユ、カマキリ、カジカ（中卵型）、ウツセミカジカ、ドンコ、カワアナゴ、チチブ、ウキゴリの 28 種である。

スナヤツメ、ニホンウナギ、ゲンゴロウブナ、ギンブナ、ヤリタナゴ、アブラボテ、イチモンジタナゴ、タナゴ、イタセンバラ、ゼニタナゴ、カワバタモロコ、ハス、ウシモツゴ、ゼゼラ、コガタスジシマドジョウ、シマドジョウ、ホトケドジョウ、ナマズ、アカザ、アマゴ、アユ、カマキリ、カジカ（中卵型）、ウツセミカジカ、ドンコ、カワアナゴ、チチブ、ウキゴリは、丘陵地・平地の水域が主な生息環境である。このため、工事の実施又は鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の存在により、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。また、東海丘陵の小湿地群は、土地の改変はないため、生息環境に大きな変化は生じない。山岳トンネル区間において、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、湿地の湧水は浅層の地下水により涵養されることから、

生息環境に変化は生じない。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、生息環境は保全されると予測される。

g) 底生動物（淡水産貝類含む）

予測対象種は、オオタニシ、マシジミ、タベサナエの3種である。

オオタニシ、マシジミ、タベサナエは、丘陵地・平地の水域が主な生息環境である。このため、工事の実施又は鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の存在により、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。また、東海丘陵の小湿地群は、土地の改変はないため、生息環境に大きな変化は生じない。山岳トンネル区間において、東海丘陵の小湿地群は確認されるものの、湿地の湧水は浅層の地下水により涵養されることから、生息環境に変化は生じない。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、生息環境は保全されると予測される。

h) 真正クモ類

予測対象種は、ワスレナグモ、カネコトタテグモ、キノボリトタテグモ、キシノウエトタテグモ、ギボシヒメグモ、ビジョオニグモ、コガネグモ、トリノフンダマシ、オオトリノフンダマシ、スズミグモ、ムツトゲイセキグモ、ゲホウグモ、エビチャコモリグモ、ハヤテグモ、ハマキフクログモ、ヤギヌマフクログモ、ヒゲナガツヤグモ、アシナガカニグモの18種である。

これらのうち、ワスレナグモは、丘陵地・平地の草地及び住宅地が主な生息環境である。カネコトタテグモ、キノボリトタテグモ、キシノウエトタテグモは、丘陵地・平地の住宅地及び崖地が主な生息環境である。ギボシヒメグモ、ビジョオニグモ、スズミグモ、ムツトゲイセキグモ、ゲホウグモ、ヤギヌマフクログモは、丘陵地・平地の樹林が主な生息環境である。コガネグモは、丘陵地・平地の住宅地が主な生息環境である。トリノフンダマシ、オオトリノフンダマシは、丘陵地・平地の樹林及び草地が主な生息環境である。エビチャコモリグモは、丘陵地・平地の草地、湿地及び水域が主な生息環境である。ハヤテグモは、丘陵地・平地の樹林及び住宅地が主な生息環境である。ハマキフクログモは、丘陵地・平地の湿地及び水域が主な生息環境である。ヒゲナガツヤグモは、丘陵地・平地の草地及び水域が主な生息環境である。アシナガカニグモは、丘陵地・平地の草地が主な生息環境である。このため、工事の実施又は鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の存在により、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、生息環境は保全されると予測される。

i) 陸産貝類

予測対象種は、ナガオカモノアラガイの1種である。

ナガオカモノアラガイは、丘陵地、平地の水域が主な生息環境である。このため、工事の実施又は鉄道施設（非常口（都市部、山岳部）、変電施設、保守基地）の存在により、生息環境の一部が消失、縮小する可能性があるが、その程度はわずかであり、周辺に同質の生息環境が広く分布することから生息環境は確保される。

したがって、事業の実施による影響の程度はわずかであり、生息環境は保全されると予測される。

2) 環境保全措置の検討

ア. 環境保全措置の検討の状況

本事業では、計画の立案の段階において、動物に係る環境影響を回避又は低減するため「重要な種の生息地の全体又は一部を回避」、「資材運搬等の適切化」、「防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用」、「トンネル坑口への防音扉の設置」、「工事従事者への講習・指導」及び「放流時の放流箇所及び水温の調整」について検討した。さらに、事業者により実行可能な範囲内で、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に伴う車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）及び鉄道施設（トンネル、変電施設、保守基地）の存在による動物に係る環境影響を回避又は低減することを目的として、環境保全措置の検討を行った。

検討にあたっては、「重要な種の生息地の全体又は一部を回避」を基本とした上で、さらに影響を低減させる措置を実施する。また、その結果を踏まえ、必要な場合には、損なわれる環境の有する価値を代償するための措置を検討した。

環境保全措置の検討の状況を表 8-4-1-41 に示す。

表 8-4-1-41 環境保全措置の検討の状況

| 環境保全措置 | 保全対象種 | 実施の適否 | 適否の理由 |
|------------------------|-------|-------|--|
| 重要な種の生息地の全体又は一部を回避 | オオタカ | 適 | 重要な種の生息地への影響を回避又は低減できることから、環境保全措置として採用する。 |
| 資材運搬等の適切化 | オオタカ | 適 | 運行ルートを自然環境保全地域など動物の重要な生息地を出来る限り回避するよう設定し、配車計画を運行ルートに応じた車両の台数や速度、運転方法などに留意して計画することによりオオタカへの影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。 |
| 防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用 | オオタカ | 適 | 鳥類等の生息環境への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。 |
| トンネル坑口への防音扉の設置 | オオタカ | 適 | 鳥類等の生息環境への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。 |
| 工事従事者への講習・指導 | オオタカ | 適 | 不用意な林内への立ち入りやゴミ捨ての禁止等について工事従事者に指導することで、人為的な攪乱による影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。 |
| 放流時の放流箇所及び水温の調整 | — | 適 | トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性があるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整するとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にしてから放流することで、トンネルからの湧水を放流する河川を生息環境とする種全般への影響を低減できることから、環境保全措置として採用する。 |

両生類、爬虫類のうち、一部の冬眠する重要種については、過去の事例や専門家の意見も踏まえ、確認位置から重要種の生息地の分布範囲を推定し、改変の可能性のある範囲との関係から、一部改変の可能性のある範囲で確認されるものの殆どは同質の生息環境が広がり、地域個体群に影響を与える程度ではなく、種として生息環境は保全されると予測するが、今後、事業計画を具体的に検討する段階において、必要に応じて専門家の助言を受け、さらに検討を進める。

工事計画を検討するにあたり、重要な種の生息状況及び専門家の助言等を踏まえ、環境影響を可能な限り回避又は低減し、必要な場合には損なわれる環境の有する価値を代償するための措置を講じていく。

オオタカ（西尾ペア）の検討状況は、以下のとおりである。

- ・春日井市西尾町付近の非常口（山岳部）、保守基地については、オオタカ（西尾ペア）の営巣中心域が尾根をまたぐ山林付近に位置している。「7-2 調査、予測及び評価の手法の選定」に示す改変の可能性のある範囲として設定した区域の中で、計画する改変区域はその一部であり、今後施設の計画を詳細に進めていくにあたっては、営巣中心域を回避するように計画する。
- ・計画する改変区域はすでに改変された耕作地である。また、「6-3 愛知県知事の環境の保全の見地からの意見及びそれについての事業者見解」に記載したとおり、愛知県知事の意見「事後調査は、環境保全措置の内容をより詳細なものにする必要があるため、採

餌活動が活発な日の出から早朝までの時間帯も実施すること。」を確認するための調査を実施している。確認調査においても、計画している改変区域内における採餌活動はみられず、狩場としての重要性は低いことを確認している。

- ・工事の実施にあたっては、防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用やトンネル坑口への防音扉の設置、資材運搬等の適切化、工事従事者への講習・指導などを行い、影響の低減を図っていく。
- ・今後は、工事開始までの継続的な確認調査及び事後調査を実施して生息状況の確認を行い、工事に対する影響の程度を把握し、改変区域のすぐ近傍において営巣が確認された場合には、施工順序の見直しや工事工程の調整を行い繁殖への影響の大きな時期に騒音等の少ない作業を実施するなどの措置についても専門家等の助言を踏まえ、検討を行っていく。

イ. 環境保全措置の実施主体、方法その他の環境保全措置の実施の内容

本事業では、工事の実施（建設機械の稼働、資材及び機械の運搬に伴う車両の運行、切土工等又は既存の工作物の除去、トンネルの工事又は工事施工ヤード及び工事用道路の設置）及び鉄道施設（トンネル、変電施設、保守基地）の存在による動物に係る環境影響を低減させるため、環境保全措置として「重要な種の生息地の全体又は一部を回避」、「資材運搬等の適切化」、「防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用」、「トンネル坑口への防音扉の設置」、「工事従事者への講習・指導」及び「放流時の放流箇所及び水温の調整」を実施する。環境保全措置の内容を表 8-4-1-42 に示す。

表 8-4-1-42(1) 環境保全措置の内容

| | | |
|-----------|-------------------------|--------------------|
| 実施主体 | 東海旅客鉄道株式会社 | |
| 保全対象種 | オオタカ | |
| 実施内容 | 種類・方法 | 重要な種の生息地の全体又は一部を回避 |
| | 位置・範囲 | 重要な種の生息地 |
| | 時期・期間 | 工事前 |
| 環境保全措置の効果 | 重要な種の生息地への影響を回避又は低減できる。 | |
| 効果の不確実性 | あり | |
| 他の環境への影響 | なし | |

表 8-4-1-42(2) 環境保全措置の内容

| | | |
|-----------|---|-----------|
| 実施主体 | 東海旅客鉄道株式会社 | |
| 保全対象種 | オオタカ | |
| 実施内容 | 種類・方法 | 資材運搬等の適切化 |
| | 位置・範囲 | 資材運搬経路 |
| | 時期・期間 | 工事中 |
| 環境保全措置の効果 | 運行ルートを自然環境保全地域など動物の重要な生息地を出来る限り回避するよう設定し、配車計画を運行ルートに応じた車両の台数や速度、運転方法などに留意して計画することによりオオタカへの影響を低減できる。 | |
| 効果の不確実性 | なし | |
| 他の環境への影響 | なし | |

表 8-4-1-42(3) 環境保全措置の内容

| | | |
|-----------|---|------------------------|
| 実施主体 | 東海旅客鉄道株式会社 | |
| 保全対象種 | オオタカ | |
| 実施内容 | 種類・方法 | 防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用 |
| | 位置・範囲 | 変更区域 |
| | 時期・期間 | 工事中 |
| 環境保全措置の効果 | 防音シート、低騒音・低振動型の建設機械の採用により、騒音、振動の発生が抑えられることで、鳥類等の生息環境への影響を低減できる。 | |
| 効果の不確実性 | なし | |
| 他の環境への影響 | なし | |

表 8-4-1-42(4) 環境保全措置の内容

| | | |
|-----------|---|----------------|
| 実施主体 | 東海旅客鉄道株式会社 | |
| 保全対象種 | オオタカ | |
| 実施内容 | 種類・方法 | トンネル坑口への防音扉の設置 |
| | 位置・範囲 | 工事施工ヤード |
| | 時期・期間 | 工事中 |
| 環境保全措置の効果 | トンネル坑口に防音扉を設置することにより、騒音の発生が抑えられることで、鳥類等の生息環境への影響を低減できる。 | |
| 効果の不確実性 | なし | |
| 他の環境への影響 | なし | |

表 8-4-1-42(5) 環境保全措置の内容

| | | |
|-----------|---|--------------|
| 実施主体 | 東海旅客鉄道株式会社 | |
| 保全対象種 | オオタカ | |
| 実施内容 | 種類・方法 | 工事従事者への講習・指導 |
| | 位置・範囲 | 事業区域及びその周囲 |
| | 時期・期間 | 工事中 |
| 環境保全措置の効果 | 不用意な林内への立ち入りやゴミ捨ての禁止等について工事従事者に指導することで、人為的な攪乱による影響を低減できる。 | |
| 効果の不確実性 | なし | |
| 他の環境への影響 | なし | |

表 8-4-1-42(6) 環境保全措置の内容

| | | |
|-----------|--|-----------------|
| 実施主体 | 東海旅客鉄道株式会社 | |
| 保全対象種 | — | |
| 実施内容 | 種類・方法 | 放流時の放流箇所及び水温の調整 |
| | 位置・範囲 | トンネルの工事を実施する箇所 |
| | 時期・期間 | 工事中 |
| 環境保全措置の効果 | トンネルからの湧水量が多く河川・沢の温度への影響の可能性があるような場合は、河川・沢の流量を考慮して放流箇所を調整するとともに、難しい場合は外気に晒して温度を河川と同程度にしてから放流することで、トンネルからの湧水を放流する河川を生息環境とする種全般への影響を低減できる。 | |
| 効果の不確実性 | なし | |
| 他の環境への影響 | なし | |

ウ. 環境保全措置の効果及び当該環境保全措置を講じた後の環境の変化の状況

環境保全措置の効果を表 8-4-1-42 に示す。環境保全措置を実施することで、動物に係る環境影響が回避又は低減される。

3) 事後調査

ア. 事後調査を行うこととした理由

本事業の実施による動物への影響は、環境保全措置を実施することにより回避又は低減できるものと予測する。

しかし、オオタカの環境保全措置の効果に不確実性があることから、事後調査を実施するものとする。

イ. 事後調査の項目及び手法

事後調査の内容を表 8-4-1-43 に示す。

表 8-4-1-43 事後調査の概要

| 調査項目 | 調査内容 | 実施主体 |
|-------------|---|------------|
| オオタカの生息状況調査 | ○調査時期・期間 工事中及び工事後の繁殖期 ○調査地域・地点 生息地周辺 ○調査方法 定点観察法 | 東海旅客鉄道株式会社 |

ウ. 事後調査の結果により環境影響の程度が著しいことが判明した場合の対応の方針

事後調査の結果について、環境影響の程度が著しいと判明した場合は、その原因の把握に努めるとともに、専門家の助言も踏まえ、必要な場合には種の特性に合わせた改変時期の設定や改変期間の短縮についても検討し、改善を図るものとする。

エ. 事後調査の結果の公表方法

事後調査結果の公表は、原則として事業者が行うものとするが、公表時期・方法等は、関係機関とも連携しつつ、適切に実施するものとする。

4) 評価

ア. 評価の手法

ア) 回避又は低減に係る評価

調査・予測結果及び環境保全措置を行った場合はその結果について、事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減がなされているか、見解を明らかにすることにより評価を行った。

イ. 評価結果

ア) 回避又は低減に係る評価

計画路線は、計画段階において、大部分の区間をトンネル構造にする等により動物への影響の回避又は低減を図っている。

春日井市西尾町付近で確認されたオオタカは、生息環境の一部が保全されない可能性があるとして予測されたが、現況の地形的な特徴から、オオタカの営巣エリアからの離隔を確保することや、低騒音型、低振動型機械の使用等の環境保全措置を実施することで、影響の回避、低減に努める。

さらに、列車の走行に関する騒音等が野生動物に及ぼす影響に関しては、現時点で十分な知見が蓄積されていないが、影響の把握や保全措置等について、整備新幹線での対応状況もみながら検討を進めていく。

なお、オオタカへの環境保全措置は、その効果に不確実性が生じるため、事後調査を実施する。また、予測し得ない影響が生じた場合は、専門家の助言等を踏まえて、別途対策を検討する。

なお、東海丘陵の小湿地群については、非常口（山岳部）と本線を接続するトンネルから1km以上の離隔があることから影響はないと考えられる。

このことから、動物に係る環境影響の回避又は低減が図られていると評価する。